



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(平成25年度～平成29年度)

「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)

「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」

2020(令和2)年度



成果報告書



中部大学

はじめに

中部大学は、建学の精神「不言実行、あてになる人間」の下、地域社会について考え行動できる人材の育成を進めるため、2013年度～2017年度まで、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（以下「COC事業」という）に採択された「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」を、2015年度～2019年度には、COC事業に加えて文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（以下「COC+事業」という）に採択された「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」を展開しました。COC事業が終了した2018年度からは、すでに役割を終えた一部の事業は整理統合しつつ、この事業を大学独自で取り組む事業として継続し、今年度からはCOC+事業が2019年度をもって終了したことを受けて、その内容も整理しながら組み込みました。（以下「COC継続事業」という）

COC継続事業の目的は、中部大学が地域の知の拠点として、地域と連携した知の創造を通じて、地域に目を向け問題解決に取り組むことができる人材としての地域創成メディアーターを育成するとともに、地域再生、地域活性化に貢献することです。

本年度はこの目的を達成するため、昨年度までの活動成果を当初掲げた達成目標と照らし合わせて検証し、従来の6つの活動を①地域関連の正課教育「地域共生実践」と地域関連科目の授業の実施、②本学と地域（春日井市、春日井商工会議所、高蔵寺ニュータウン等）が連携しての生活・住環境を考えるまちづくり、③同じく本学と地域が連携しての世代間交流プログラムの実施、④シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ）の実施の4つの事業に整理・統合して展開してきました。

事業目的の一つである地域創成メディアーターの育成については、今年度も昨年度と同様にルーブリック評価を用いて、その達成要件を審査し、新型コロナウイルスの感染拡大による活動の制約があったにもかかわらず、多くの学生を地域創成メディアーターに認定する運びとなりました。

本成果報告書は、2020年度のCOC継続事業において実施した各種活動とその成果をまとめたものです。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC継続事業に関するご理解を深めていただくとともに、次年度以降の地域連携教育・研究活動に活かしていきたいと考えています。今後とも、これまでのCOC並びにCOC+事業の経験と成果を踏まえて、大学独自の「地（知）の拠点事業」をCOC継続事業として推進し、その人材育成目標及び地域貢献目標を確実に達成すべく努力を重ねていく所存です。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年3月

中部大学 国際・地域戦略部門地域連携センター

センター長 櫻井 誠

目次

はじめに

1. 概要

(1) 目的・目標・概要図 1

(2) 実施体制・メンバー表 7

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果 11

(2) ワーキンググループ等報告

① 正課教育WG 27

② 生活・住環境を考えるまちづくりWG 30

③ 世代間交流プログラムWG 34

④ CAAC運営委員会 37

(3) その他プロジェクト活動報告

① PBLゼミ 41

② COC+参加大学共通プログラム「オータムスクールin羽島」 81

3. 新聞記事 97

1. 概 要

(1) 目的・目標・概要図

1. 概要

(1) -1 目的

中部大学（以下本学）「地（知）の拠点整備事業」：『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業（以下本事業）』は2018年3月に5年計画の最終年度を迎えた。事業目的は5年間を通して設定されているため、ここでは5年間の事業目的の概要をあらためて記す。

本事業は初年度の報告書にも述べられているように本学が「地域課題の解決」および「地域に役立つ人材養成」を目的とする地域再生・発展のための地（知）の拠点となるための大学改革事業である。またその改革の成果を地域社会に還元し、地域社会に貢献していくことを目的としている。

本学はその基本理念として、『不言実行、あてになる人間』を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献する。」こととしており、その社会貢献上の使命として、「さまざまな社会活動に参画し、大学が保有する知的・物的資源を活用することによって、地域を中心とする社会の福利向上と発展に貢献する」ことを学内外に明確にしており、地域貢献・地域連携は本来、本学の使命でもある。

すなわち本学は建学の精神「あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として本事業を遂行しており、社会・産業界の中で地域にも目を向けて「行動できる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「頑張れる人間」「信頼できる人間」としての学生育成を目指している。本学はこの事業を通してさらに一層地方大学の社会的使命を探究し、持続可能な未来社会の創造とその教育のあり方を力強く追求する。

I. 全体としての目的

本事業全体の目的をさらに具体的に述べれば、地域にも目を向けて地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指し、現代社会の主役である高齢者にとって安心・安全で豊かな社会づくり、まちづくりを春日井市に展開する。その成果を春日井地域に還元し、都市づくりを進める。さらに、その成果と知識を広く日本社会全体に拡大することで日本の発展に貢献していく。こうした実践活動を学生自身が担っていくことで、学生自身が実践的知識を深め、支援技術を学び、前述の地域であてになる人材に育っていく。

II. 教育上の目的

地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指す。

① 「地域連携教育改革・教育システムの構築」

現在まで進めてきた教育改革をさらに発展させ、地域社会に役立つ人間となるための行動計画を持てるよう、全学共通教育の科目として新たに『地域共生実践』を設置し、学部・学科にも地域志向関連科目を設置した。こうして基礎教育と専門教育を交互に

発展的に教育し、地域社会再構築のために必要な実践的人材を育成するための教育改革を目的とする。さらに最終的に中部大学が認定する“あてになる人間＝『地域創成メディエーター』”の育成を目的とする。

②「地域連携プログラム」

春日井商工会議所と連携協定を締結し、単なる就労ではなく、人材育成プログラムとして意識的に学生を教育する報酬型インターンシップ型の就労システムを構築した。また、「高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化」といった地域貢献活動においても学生を社会貢献の実践的に参加させ、高齢者・地域住民と交流させることで、高齢化社会の地域課題を理解し、積極的に課題解決策を考える能力を涵養することも目的としている。

③「コミュニティ情報ネットワーク事業」においては地域への情報発信を行うことやスポーツ障害予防を啓発する活動を目指した。

④「生活・住環境を考えるまちづくり事業」でも学生を研究活動に参加させることで、地域の課題を解決していく能力の育成にも資することが目的ともなっている。

⑤「高齢者と学生の交流、高齢者宅への Learning Home Visit (LHV)」では地域での高齢者問題を身近に感じることから、問題解決能力の育成を目指した。

⑥「シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）」では地域に開かれた大学としてシニア向けの学びの場を提供し、その学びを通して地域に貢献できるアクティブシニアの育成を目指した。

Ⅲ. 研究上の目的

地域活性化の課題研究として以下の研究の推進を目的とする。

①「コミュニティ情報ネットワーク事業」

地域住民に役立つコミュニティ情報を発信し、豊かで便利な地域として発展するための情報の提供を行う。

②「生活・住環境を考えるまちづくり事業」

春日井市のまちづくりの課題解決に協働し、地域の住民が安心して快適な生活を送れるようになることを目的に社会基盤の整備、地域環境の改善に関する開発研究を行う。

その他社会貢献活動関連研究

「高齢者-学生交流・LHV事業」や「シニア大学」の開設などの社会貢献に関連しながら、地域の課題をさまざまな観点から調査研究し、地域活性化と高齢者支援の手段を見いだしていくことを目的とした研究活動も並行して行う。

Ⅳ. 社会貢献上の目的

改革の成果を春日井を中心とした地域に還元し、地域の再生・活性化を支援するため、以下の地域社会貢献を目的とする。

①「地域連携教育改革・教育システムの構築」

地域に役立つ人材を教育機関として養成し地域に送り出すことで社会に貢献する。地

域の課題を現実的に理解し、解決のために行動を起こすことができる“あてになる人材”を養成する。そして地域のコミュニティ活動の中心人物であり、リーダーとなることのできる知識と問題解決能力を持ち、良好な対人関係を維持できる人材を地域に送り出す。これは教育機関として重要な社会貢献活動である。さらに本事業では、春日井市の課題克服のための解決策を中部大学が軸となって展開し、現代社会の最重要課題である高齢化社会の以下の課題解決に挑戦する。

- ②「高齢者と学生の交流、高齢者宅への Learning Home Visit(LHV)」
高齢世帯や独居高齢者の見守りや生活支援を目的に若者による高齢者との交流や同居活動を進める。
- ③「シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）」
高齢者の健康づくりや再雇用のための技術資格取得を目的に実践教育を行う。

(1) -2 目標

2017 年度でCOCの文部科学省補助金事業は終了した。また、COC+の文部科学省補助金事業についても2019年度で終了した。それに伴い、前項の目的の継続並びにCOC+の理念の融合を鑑みて、今年度の目標を以下のように設定した。

I. 全体

- ①COC推進委員会委員とワーキンググループの統合・再編
各事業活動リーダー・副リーダーおよび各学部代表委員からなるCOC推進委員会の機能を維持し、活動内容に応じてワーキンググループを一部、統合・再編し（実施体制・メンバー表参照）、本事業全体の推進にあたる。
- ②地域創成メディエーターの育成
平成27年度までの立ち上げ期間から、H28以降、具体的アクションプランを実施し、今年度も引き続き地域創成メディエーターの輩出を図る。なお、COC+で輩出していた地域活性化リーダーについては、資格取得要件を途中まで獲得している学生に対してのみ引き続きフォローし輩出を図ることとするが、新規の希望学生の受け入れを停止し地域創成メディエーターへの統合を図ることとする。
- ③内部評価委員会の開催
学長を委員長とする学部長・研究科長会のメンバーに春日井市をオブザーバーに加えて内部評価委員会を開催し、事業活動の報告とそれに基づいて評価を受ける。

II. 教育

教育活動としては地域連携教育の推進と報酬型インターンシップの確立を目指す。

- ①地域連携教育改革を実施し、教育システムの構築
 - 1) 地域共生実践の春学期3講義・秋学期5講義、並列開講の運営。担当教員・協力者の勧誘と増員。
 - 2) 地域創成メディエーターへの導き。
 - 3) 地域創成メディエーター学生発表会（+エクスペッション）を開催し、地域創

成メディエーターをルーブリック評価に基づき認定する。

②報酬型インターンシップ制度の維持・発展

- 1) 春日井商工会議所との連携強化。
- 2) 学生への説明会の開催。

③体験型学習の推進

- 1) PBLゼミの実施。
- 2) COC+参加大学共通プログラム「サマースクール」への参画。

Ⅲ. 研究

研究活動として高蔵寺ニュータウンを中心としたまちづくり活動を展開し、生活・住環境を考えるまちづくりを推進する。

- ①春日井市等のまちづくりの課題解決に協働し、地域住民が安心快適な生活を送れるようになることを主な目的として、社会基盤の整備、地域環境の改善に関する活動を行う。
 - 1) 「まちづくり」の意義と参加方法について学ぶ機会をつくる。
 - 2) まちづくり勉強会（学内）、タウンウォッチング（学外）、地域の自然環境調査（学外）等を実施する。
 - 3) 正課並びに自主活動を強化する。

Ⅳ. 社会貢献

高齢者・学生の交流活動を実施し、社会貢献活動として高齢者-学生交流・Learning Home Visit（LHV）事業、シニア大学、高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化の各活動を軌道に乗せ、世代間交流プログラムを推進する。

- ①高齢世帯および独居高齢者の見守りや生活支援を目的に、若者による高齢者との交流を実践する。
 - 1) KCGサークル（地域発の健康教室）等の高齢者向けの健康に関する活動の実施。
 - 2) 様々な活動を通しての高齢者とのコミュニケーションの実施。
- ②シニアが健康で豊かなセカンドライフを送り、地域社会のリーダーとして地域に貢献できるための教育を行い、超高齢化社会において「不言実行・あてになる人間」を育成することを趣旨としたシニア大学を運営する。
 - 1) 5・6期生の後期授業（春学期）を行い、5期生の修了式を行う。
 - 2) 7期生の入学式を行い、6・7期生の授業（秋学期）を行う。
 - 3) カリキュラムの改変・充実を図る。

春日井市の知の拠点＝**中部大学**
 学部：7学部(29学科)、大学院：6研究科
 学生数：約10000人、教員数：約500人

地域の方々と学生、地域と大学がキャンパスの壁を越えて融合し、持続可能な新しい未来社会とその教育を春日井の地に実現する。
中部大学は平成26年に開学50周年を迎える。中部大学ならやれる！中部大学が成功させる！

あてになる人間の育成
**中部大学認定
 地域創成メディアエーター**

本プログラムで育成した、中部大学認定「地域創成メディアエーター」が、人と人との絆をつくる介在をし、活力あるコミュニティを形成する。

春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業



<課題>
 認定基準の
 明確化

コミュニティ
 情報
 ネットワーク

シニア大学(CAAC)

高齢者・学生交流
 Learning Home Stay

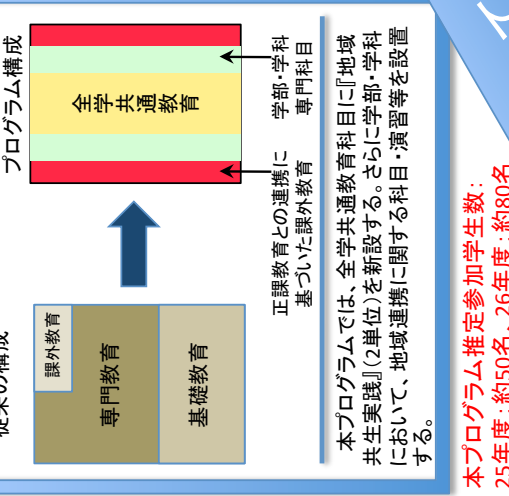
キャンパスタウン化

生活・住環境を
 考えるまちづくり

報酬型インタービュ

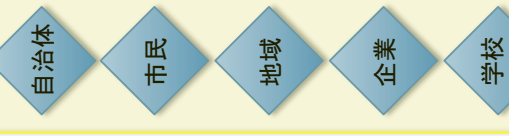
共に育つ(共育)・共に学ぶ(共学)

<教育改革>
 中部大学では、平成20年度以降大幅な教育改革を進めてきた。本事業では、更なる教育改革として、**全学共通教育**なる教育科目を導入し、**新しい教育課程**を実施する。さらに、**全学総合教育科**を発展的改組し、**全学総合COC教育科**を新たにスタートさせる計画である。



本プログラムでは、全学共通教育科目に「地域共生実践」(2単位)を新設する。さらに学部・学科において、地域連携に関する科目・演習等を設置する。

本プログラム推定参加学生数：
 25年度：約50名、26年度：約80名
 27年度：約400名
 28年度：約600名
 29年度：約800名
 (以降、順次増加する。)



創造

- 新たな価値を創造することができる
- 情報共有システムに必要な技術を開発することができる
- 調査した技術を整理することができる
- 老若男女が同一の環境で学ぶ場を提供できる
- 学生本人が人生プランを創造することができる

自立

- 社会人としての考え方や能力を伸ばすことができる
- 一人一人が多様な個性・能力を伸ばす事ができる
- 対人関係形成能力を改善し自立心を養うことができる
- 世代間交流により知的にも道徳的にも成長することができる
- 地域貢献することにより目的意識や学習意欲を高めることができる
- 世代を超え、相互に切磋琢磨し、いたわりの心と自立心を養う事ができる
- 地域特有の課題を見つけて出しその解決策を考える能力を伸ばす事ができる

協働

- 春日井市の活性化に寄与できる
- プロジェクトメンバーの一員として、システムの在り方を議論できる
- 地域の方々と対話・議論し、システムの在り方を議論することができる
- 地域社会を支える担い手としての使命感を育成することができる
- 異世代の結束は地域を活性化し、高齢社会問題の多くを解決できる
- 高齢者と若者の相互理解が、異なる世代同士の結束をもたらすことができる
- 共に支え合う、共に学び合う、共に理解し合うことを通じて社会に参画することができる

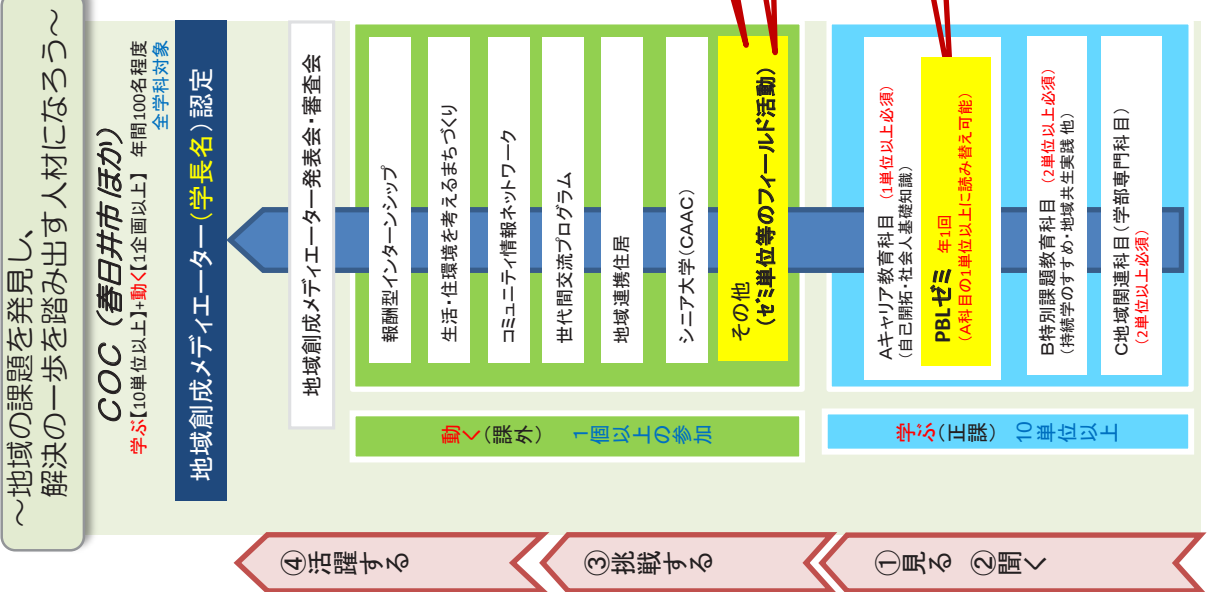
学内の実施体制
 学長主導の基、COC担当理事(兼)副学長を置き、本取組みを統括し、推進する。

協力・提案・シナジー

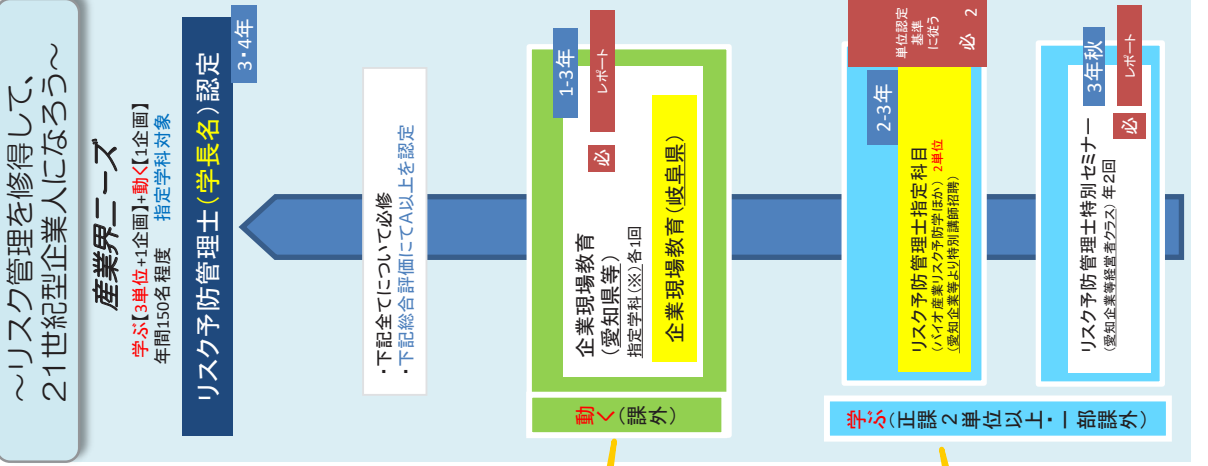
(注)2013年申請書類より抜粋

中部大学における地域発展に貢献する人材の育成（2020年度）

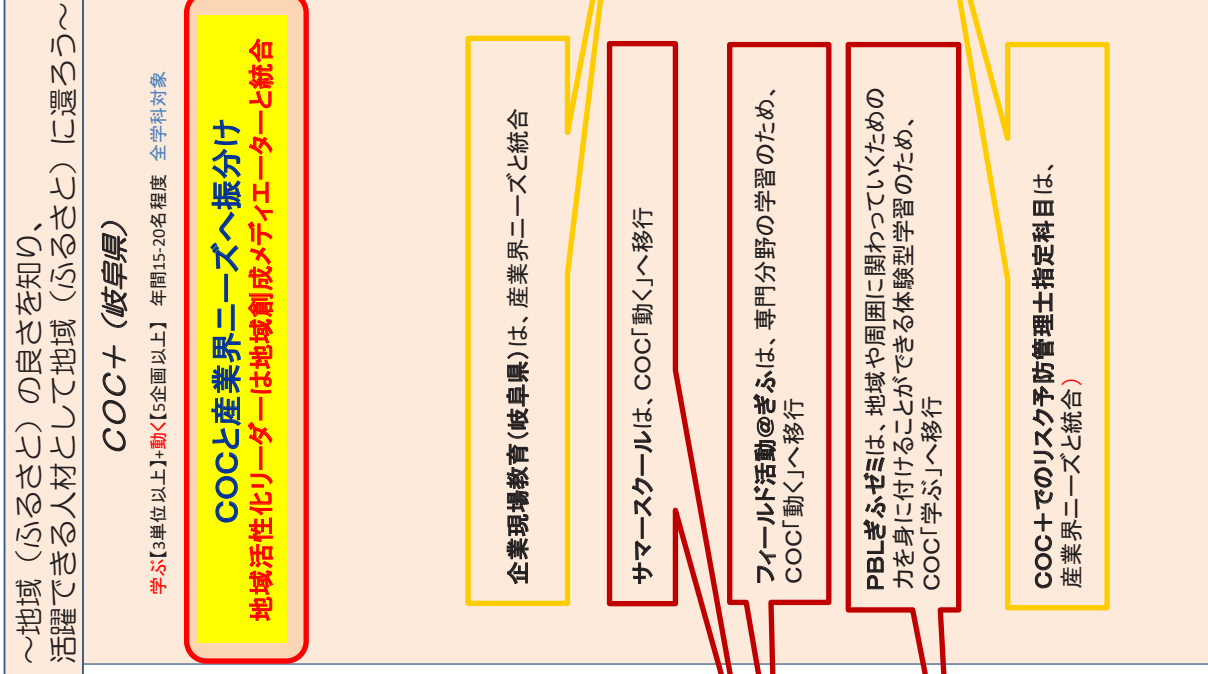
【専門分野の学習】



【キャリア教育】



【地域活性化】

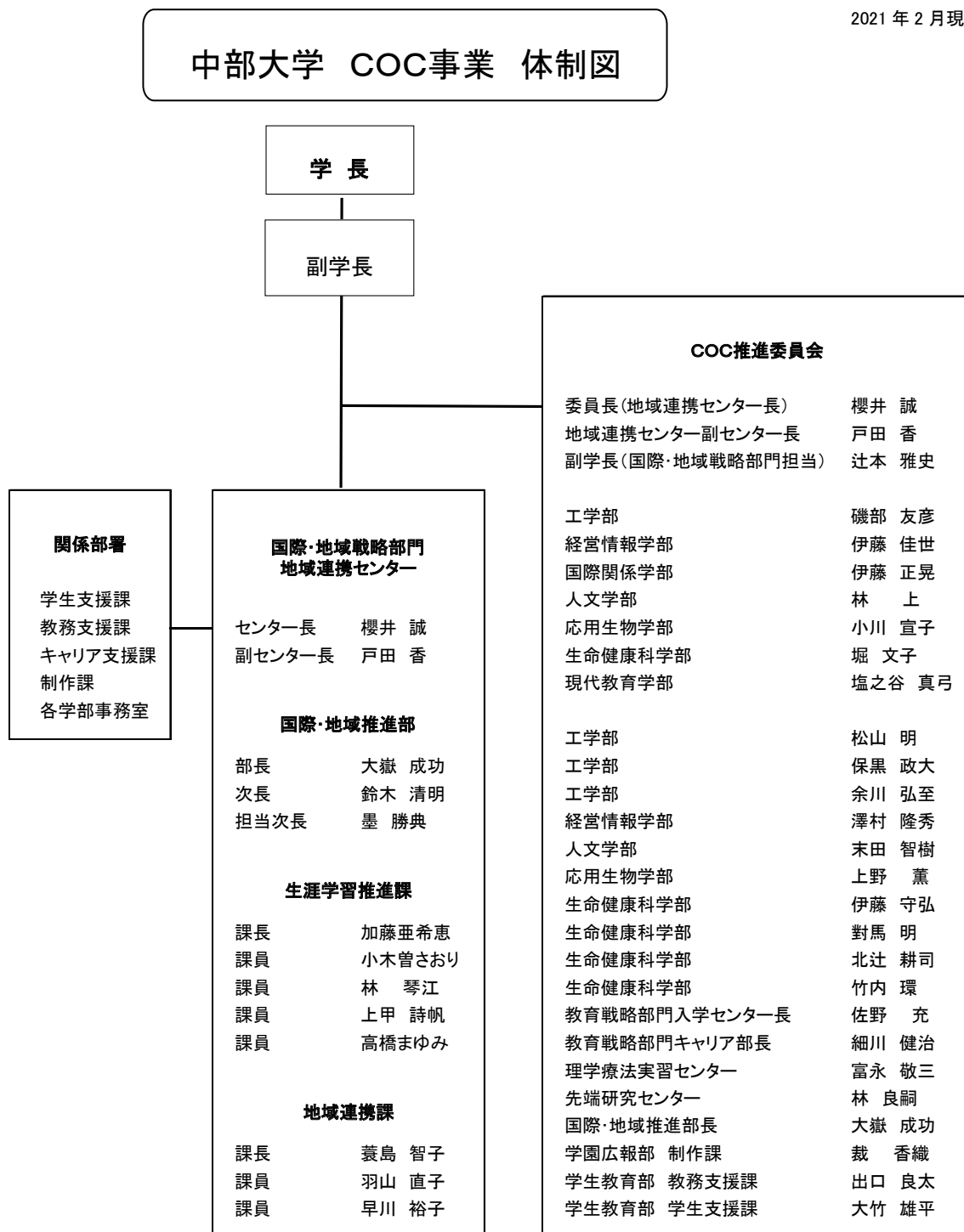


(2) 実施体制・メンバー表

(2) 実施体制・メンバー表

本事業を全学的に推進・実施するために以下のように学長を総括責任者とし、全学体制を構築。実際の事業は、全学部からの委員を含むCOC推進委員会を設置し推進にあたっている。またCOC推進委員会内に活動毎に4つのワーキンググループを設け各活動を展開し、事務部門は2019(令和1)年度から国際・地域推進部で事業全体の事務的管理にあたっている。(以下、中部大学COC事業体制図およびCOC・WGメンバー表参照)

2021年2月現在



2020年度 COC・WGメンバー (2月1日)

正課教育WG (活動番号①)

委員長	上野 薫	(応用生物学部 環境生物科学科 准教授)
副委員長	伊藤 守弘	(生命健康科学部 生命医科学科 教授)
委員	竹内 環	(生命健康科学部 助教)
同	山羽 基	(工学部 建築学科 教授)
同	伊藤 佳世	(経営情報学部 経営総合学科 准教授)
同	羽後 静子	(国際関係学部 国際学科 教授)
同	小川 宣子	(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)
同	牧野 典子	(生命健康科学部 保健看護学科 教授)
オブザーバー (事務局)	櫻井 誠 墨 勝典	(地域連携センター長/工学部 応用化学科 教授) (国際・地域推進部 担当次長)

生活・住環境を考えるまちづくりWG (活動番号②)

委員長	磯部 友彦	(工学部 都市建設工学科 教授)
副委員長	松山 明	(工学部 建築学科 准教授)
委員	岡本 肇	(工学部 都市建設工学科 准教授)
同	余川 弘至	(工学部 都市建設工学科 講師)
同	横江 彩	(工学部 建築学科 講師)
同	林 良嗣	(先端研究センター 教授)
同	小川 宣子	(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)
(事務局)	墨 勝典	(国際・地域推進部 担当次長)

世代間交流プログラムWG (活動番号③)

委員長	堀 文子	(生命健康科学部 作業療法学科 准教授)
副委員長	戸田 香	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
委員	保黒 政大	(工学部 宇宙航空理工学科 教授)
同	長島 万弓	(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)
同	野田 明子	(臨床検査技術教育・実習センター 教授)
同	三摩 真己	(人文学部 コミュニケーション学科 教授)
同	末田 智樹	(人文学部 歴史地理学科 教授)
同	伊藤 守弘	(生命健康科学部 生命医科学科 教授)
同	宮下 浩二	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
同	尾方 寿好	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授)
同	横手 直美	(生命健康課学部 保健看護学科 准教授)
同	矢澤 浩成	(理学療法実習センター 講師)
同	谷利 美希	(作業療法実習センター 助教)
同	北辻 耕司	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 助教)
同	松村 亜矢子	(生命健康科学部 准教授)
(事務局)	墨 勝典	(国際・地域推進部 担当次長)

CAAC運営委員会(活動番号④)

委員長	辻本 雅史	(カレッジ長／リカレント教育担当副学長)
副委員長	對馬 明	(コース長／生命健康科学部 理学療法学科 教授)
委員	羽後 静子	(コース長／国際関係学部 国際学科 教授)
同	櫻井 誠	(地域連携センター長／工学部 応用化学科 教授)
同	林 上	(人文学部 歴史地理学科 特任教授)
同	末田 智樹	(人文学部 歴史地理学科 教授)
同	甲田 道子	(応用生物学部 食品栄養科学科 准教授)
同	伊藤 正晃	(国際関係学部 国際学科 講師)
同	大嶽 成功	(国際・地域推進部長)
同	出口 良太	(教務支援課長)
同	大竹 雄平	(学生支援課長)
(事務局)	加藤 亜希恵	(生涯学習推進課 課長)
同	林 琴江	(生涯学習推進課)

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

事業活動はCOC推進委員会ならびに活動毎のワーキンググループにより行なわれてきたが、それらに共通する課題や統括する活動は地域連携センター長を中心にCOC推進委員会等COC全体で取り組んできた。それらの成果は以下のようである。

1) 中部大学COC継続事業のスタート

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」としての5年間が終了し、平成30年度からは中部大学COC事業として再スタートをした。また、昨年度をもって文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）としての5年間も終了したため、それも組み込むとともに、昨年度6つあったWGを4つに統合し、正課外活動を春日井市外へも広げ、新たに中部大学COC継続事業としてスタートした。

2) COCホームページの拡充

各ワーキンググループの活動内容を中心に適宜更新し拡充した。

3) COC推進委員会の開催

各ワーキンググループリーダーと各学部代表委員などからなるCOC推進委員会の構成員を見直した。委員は、委員長以下28名とし、COC推進委員会が各活動の報告と重要事項の審議にあたった。

4) 地域創成メディエーターの育成

平成27年度までの立ち上げ期間から28年度はCOC事業における地域創成メディエーターの本格的実施年度となった。以降、2020(令和2)年度も前年度同様に育成に努めた。

(1) COC継続事業における地域創成メディエーターの人物像

本学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として、COC継続事業では「地域創成メディエーター」の育成を行っている。社会・産業界は、都市だけでなく「地域にも目を向けられる人材」を求めているため、「自ら行動できる人間」「考えられる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「がんばれる人間」「信頼できる人間」「地域にも目を向けられる人間」としての学生育成を図っている。学生が地域社会に触れると「なぜ」「どうして」とこれまでの同学年の学生仲間関係とは違う驚き等を感じ、対処法や改善策を考えると自然と「考える力」が熟成される。

(2) 地域創成メディエーター育成のための具体的アクション

以上の認識の下に、COC推進委員会、事務局が一丸となって、他部門とも密接な協力の下に以下に示すような具体的なアクションプランを作り、着実に実施し、地域創成メディエーターの育成を図った。

- ① 正課外教育事業の体験を1つ以上とする。
- ② オリエンテーション時に学生(新入生から3年生)に対して、地域創成メディエーター取得を促すチラシ(別紙①参照)を配布し、学生への周知を図った。
- ③ 推進委員は担当する正課科目の講義にて地域創成メディエーターの取得を学生に促した。
- ④ 教務支援課に依頼し、資格取得に必須となる正課科目を取得あるいは履修中の学生を学科ごとにリストアップした。
- ⑤ 各推進委員に学科毎(場合により学部)の上記リストを渡し、各学科の3年生指導教員とタイアップしてリストの学生に地域創成メディエーターを取得するように積極的に促した。
- ⑥ 副委員長が事務局と連携し、⑤のフォローアップを行った。
- ⑦ 推進委員および「動く」の活動担当者から、84名の地域創成メディエーター候補の学生を選出いただき、「動く」の課外活動のフォローアップを行った。
- ⑧ 「動く」の活動は、昨年認定された活動のうち今年度も継続する27活動に、従前よりCOC+参加大学共通プログラムとして実施されていた「サマースクール」を新たに「動く」の対象に加えて、合計で28活動となった。
- ⑨ キャリア教育科目(自己開拓、社会人基礎知識)において、3年生以上のみ、大学側の受講人数制限により、本人の意思とは関係なく「学ぶ(正課教育)」を履修できない希望学生には、特別課題レポートを提出させて、地域創成メディエーター資格条件の「学ぶ」をクリアとする特別措置を認めた。特別課題教育科目では、3年生以上に限り「持続学のすすめ」「地域の防災と安全」での読み替えを特別措置とした。また、従前COC+において開催していた「PBLぎふゼミ」を「PBLゼミ」に改め、キャリア教育科目の1単位として読み替え対象とした。
- ⑩ 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価で、育成する人材像を明確にした。(別紙②参照)

(3) 地域創成メディエーター取得学生の推移

立ち上げ期間のH26年度4名及びH27年度5名から、本格実施となったH28年度は144名、H29年度からはルーブリック評価に基づき「地域創成メディエーター」の資格を132名、H30年度は108名、R01年度は66名に授与した。2020(令和2)年度は61名の学生に授与できる運びとなっている。

また、発展的に統合したCOC+事業における認定資格の地域活性化リーダーの取得学生については、昨年度まで単位取得中だった学生について継続的にフォローを行い、2020(令和2)年度は4名の学生に授与できる運びとなっている。

2021(令和3)年度以降も引き続き地域創成メディエーターを中心として育成を進

めていく予定である。

5) 地域創成メディエーター学生発表会「+エクスプレッション」開催 (別紙③参照)

2月16日(火)本学不言実行館アクティブホールとスチューデント・コモンズにおいて、中部大学地域創成メディエーター学生発表会「+エクスプレッション」を開催した。(※三浦幸平メモリアルホールへ会場変更)

地域創成メディエーター資格認定の最終課題「+エクスプレッション」は講義での規定単位取得に加え、キャンパスを地域に広げた課題体験に参加・実践した学生たちが、まちの再生や地域活性化などの特有の課題に地域と協働して現場で解決策を考えて取り組んだ過程と成果を発表。口頭発表4名、ポスター発表57名の学生が地域創成メディエーター候補生となった。参加者は、一般市民6名、教職員49名、学生4人が来場した。

参加者にアンケートを依頼し、12名から回答を得た。(別紙④参照)

なお、当日、公の理由により発表が困難である学生は3月にポスター発表を行った。

6) 学部長会等からなる内部評価委員会の開催

3月3日(水)に学部長・研究科長会構成員からなる内部評価委員会が開催され、2020(令和2)年度事業活動の内部評価が行われた。オブザーバーとして春日井市にも出席いただいた。

7) ぎふCOC+事業推進コンソーシアムへの参画

岐阜大学を中心とした事業協働機関としてCOC+事業に参加した5大学(岐阜大学、中部大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学)で設立されている「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に引き続き参加した。

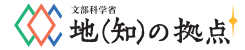
8) 採択他大学との交流と活動

(1) COC+参加大学共通プログラム「オータムスクール」に参加

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、従前までの合宿形態での「サマースクール」は開催できなくなり、その代替として、11月14日(土)、15日(日)、21日(土)の3日間にわたり、羽島市の繊維産業及び町づくりを題材とし、それぞれのPRをすることを課題とした「オータムスクール in 羽島」が開催され、岐阜大学をはじめとするCOC+参加の5大学より15名の学生が参加し実施された(本学からは3名の学生が参加した)。

(2) 「学生交流会」に参加

3月1日(月)岐阜大学と金沢工業大学を幹事校として、中部地区をはじめ全国の大学等を対象に、COC事業またはCOC+事業の継続的・発展的な活動だけではなく、地域の課題や地域をフィールドとした活動の成果を発表する「学生交流会」がWEB開催され、各大学の代表学生が発表した。本学からは、人文学部の古川穂高が「地域から学び、自分を育て、地域と向き合う」と題した発表を行った。



中部大学 学長認定資格

まだまだ

間に合う!!

いつからでも
気軽にチャレンジ可能!
まずは、事務局へGO!!



就活を有利に!

免許・資格欄を
充実させたいなら!

地域創成メディエーター

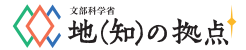
地域が、キミのキャンパス。

中部大学 国際・地域推進部
キャンパスプラザ 2階

Phone.0568-51-1763 e-mail:coc@office.chubu.ac.jp
https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/

「地域創成メディエーター」資格とは、在学中から社会経験を積み、社会で生きる力を身につける、中部大学式「人材育成体験プログラム」。地域の人々と共に地域のさまざまな問題解決への取り組みを経て「行動できる人」「自ら道を切り拓く人」「頑張れる人」「信頼できる人」として中部大学が自信を持って認定し、推薦できる学生の証です。

- ADVANTAGE 1** 専門性がより高まる
- ADVANTAGE 2** 直接就職に結びつく可能性がある
- ADVANTAGE 3** 職業の適性がわかる
- ADVANTAGE 4** 就活時のアピールポイントになる
- ADVANTAGE 5** コミュカや思考力が高まる
- ADVANTAGE 6** 幅広い価値観が学べる
- ADVANTAGE 7** 学部学科を超えた仲間ができる



「地域創成メディエーター」の資格取得は、
地域と社会に選ばれるために必要な **実践力・応用力・人間力** を養うために役立ちます。

Step.1

単位取得 & 課題設定

規定単位を取得し、審査基準をクリアした人に、学長認定の資格が授与されます。

学ぶ

授業で
知識を習得
正課

Aの科目から1単位以上、
B～C科目から各2単位以上、合計10単位以上 必須

自立した社会人として地域の人々に関わるために、
地域社会の多様な背景を知り、専門的な知識を身につけよう。

A キャリア教育科目

1年 秋学期 「自己開拓」

グループワークによる実習。協同作業を通じて自分をより深く知ることができます。

2年 春学期 「社会人基礎知識」

自分の適性に合う職種や企業を選ぶための基礎的な知識を習得します。

B 特別課題教育科目

必修 1年 秋学期 「地域共生実践」

選択 2年 春学期 「持続学のすすめ」

「地域の防災と安全」「地球を観る」

「人類と資源」「グローバル環境論」

C 地域関連科目

メディエーター資格取得の動機や
地域の理解に役立つ科目を自由選択

選択した科目で会得した知識が、地域課題へどう繋がったか、「関連」や「動機」、「成果」を表現できればOKです。

※地域関連科目の詳細は事務局まで

年 1回 開催 PBLゼミ

実社会に対応するリアルな問題に対峙する課題解決型学習 (Project Based Learning) で仕事に必要な共同作業の能力を養い、実践的思考を鍛えます。

★「学ぶ」 A キャリア教育科目の1単位の読み替え可能

動く

課外体験に
参加・実践
課外

1プロジェクト以上に参加 必須

キャンパスを地域に広げて、まちの再生や地域活性化など、
特有の課題に取り組む現場で解決策を考えて実践にあたります。

▼プロジェクト活動の一例 ※そのほかさまざまな活動が計画されています。プロジェクトの詳細は事務局まで

高齢者との交流

- シニア大学の講義を補助
- 世代間交流会への参加
- ラーニングホームヴィジットでシニア宅の訪問や共同生活を体験

イベントの運営を通して地域貢献

- 高校の体育系部活の運営補助
- 子育て相談会の運営補助
- 街のイベント情報誌「まちこみゅニュース」の編集・発行

地域のまちを知るまちづくりを考える

- 高蔵寺ニュータウン地域連携住居への入居と地域交流イベント参加
- 障害者スポーツのすすめ
- 森の健康診断

技術を身につけながら地域貢献

- 報酬型インターンシップ
- NPO活動情報発信Webサイトの作成
- イベントでの救護ボランティア活動
- 地域の健康教室の活動支援

※「学ぶ」、「PBL」、「動く」のプログラム内容は変更される場合があります。

Step.2

資格申請

申請は手続きカンタン

申請書はパソコンでダウンロード! 必要内容を書き込み、単位証明書を添付して申し込むだけ。

いつでも教職員が全面サポート!
メディエーター資格取得は自主性・自発性を大切にしていますが、困ったときや分からないことは何でも相談を。ヒントやアドバイスをします。

Step.3

成果発表

PLUS エクスプレッション

資格取得の最後の課題がこの発表会。キャンパス内外を交えた審査員の前で、自身で設けた課題への取り組みと、その成果をプレゼンテーションします。自分自身の成長ぶりをしっかりアピールするのがポイントです。

- 課題への取り組みと成果
- 自分の変化 気づき 成長
- 会得した力を 今後どう活かすか

審査

学長認定

地域創成 メディエーター 誕生

中部大学の建学の精神、「あてになる人間」=地域創成メディエーターに見事、認定された学生には、認定証が贈られます。資格取得までの道のりが社会で生きる力となり、その達成感「自分はやれる」という自信につながるハズ!

いつでも
何度でも
チャレンジ
できます

この資格は一度認定されれば終了ではありません。新たな挑戦を続け、自分をどんどん育てましょう!



中部大学

国際・地域推進部 キャンパスプラザ 2階

TEL.0568-51-1763 e-mail:coc@office.chubu.ac.jp https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/

別紙② ルーブリック評価〈A-2表〉

〈A-2表〉

【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

中部大学地域創成デザインエーター資格申請 ルーブリック(A-2) 【動くの活動責任者(推薦者)が記入して下さい。申請書<A-1表>に添付の上、提出下さい。】

被推薦者氏名		学籍番号		所属:		氏名:				
認定活動名称		学籍番号		推薦者(教職員)		氏名:				
到達目標	小区分	区分	大項目	A(5点)	B(2点)	C(3点)	D(2点)	E(4点) C(1点)	F(0点) E(0点)	点数
1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域の取り組みに主体的かつ継続的に仲間を協力し参加することができる。またその活動に意義を見出すことができる。 2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にすることができ、自分の担当内容について責任をもって取り組むことができる。そのためのPOCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。 3) 地域の取り組みに係ることで、自己理解を深め、自己啓発を促し、キャリア設計を再構築することができる。 4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができ。	1	総合	合計10単位の整合性がとれている	十分整合性がとれている	整合性がとれている	整合性が不十分	整合性が不十分	整合性が不十分	整合性がない	点数
	2	総合	自由選択の「地域連携科目」が活動(動く)と関連している	十分関連している	関連している	関連が不十分	関連が不十分	関連が不十分	関連がない	点数
	3	総合	自由選択の「地域連携科目」の本来の意義や目的が理解できる	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が不十分	理解がない	点数
	4	総合	自分にとっての「関連科目」の意義が整理できる	十分整理されている	整理されている	整理が不十分	整理が不十分	整理が不十分	整理されない	点数
	5	総合	他者との関わりを学び、実践できる	十分実践できる	実践できる	実践できない	実践できない	実践できない	実践できない	点数
	6	総合	自分と社会の関係について、自分の考えを持ち、それを人に説明できる	十分説明できる	説明できる	説明できない	説明できない	説明できない	説明できない	点数
	7	総合	組織を活性化させる力が身についている	十分身についている	身につけている	身につけている	身につけている	身につけている	身につけている	点数
	8	総合	"持続可能な社会"のために必要なものごとを考える力が身についている	十分身についている	身につけている	身につけている	身につけている	身につけている	身につけている	点数
	9	総合	考え方や価値観を異にする人々との対話に要するコミュニケーション能力が身についている	十分身についている	身につけている	身につけている	身につけている	身につけている	身につけている	点数
	10	総合	合憲形成のために重要な行動が理解できる	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が不十分	理解がない	点数
	11	総合	参加したプロジェクトの目的や意義が理解できる	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が不十分	理解がない	点数
	12	総合	地域での取り組みに係ることで、自己理解を深め、自己啓発を促し、キャリア設計を再構築することができる。	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が不十分	理解がない	点数

別紙② ルーブリック評価〈B表〉

＜B表＞

中部大学地域創成メディアセンター資格申請 ルーブリック(B) 【発表指導責任者が申請後から発表会4日前までに記入し提出ください。】
 【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

被指導者氏名		学籍番号		所属		発表指導責任者		氏名			
認定活動名称		学級番号		所属		発表指導責任者		氏名			
区分	小区分	選定番号	大項目	発表目標	3A 5A	A(5点)	A(3点)	B(2点)	C(1点)	D(0点) F(0点)	点数
「動く」	内容・組織の理解	1	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域的取り組みに主体的かつ継続的に仲間と協力し参加することができる。またその活動に意義を見出すことができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる
		2	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にすることができ、自ら担当内容について責任をもつて成し遂げることができる。そのためのPDCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる
		3	参加したプロジェクトの運営組織(フレームワーク)と関係者(対象者)について理解できる	3) 地域の取り組みに係ることで、自己理解を深め、自己発表を進め、キャリア設計を再構築することができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる
		4	参加したプロジェクトの成果について理解できる	4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる
		5	参加したプロジェクトにおける今後の課題が理解できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる
	活動後の反省・成長	6	プロジェクトに参加した自分に対する成長が説明できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	
		7	プロジェクトに参加した自分に対する課題が説明できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	
		8	チーム活動における自分の特性を理解し、今後の活動に活かすことができる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	
		9	成果を生むために重要なチームや個人としての在り方や考え方について説明できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	
		10	「地域創成メディアエンター」資格の目的や意義について理解できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	
プレゼン準備		1	プレゼンに必要な資料収集ができる		3	十分な資料を集められる	十分な資料は集められないが、簡便的に行っている	指導を重ねれば、資料を集められる	指導を重ねれば、資料を集められる	指導を重ねれば、資料を集められる	資料を集められない
		2	プレゼン内容の方向性を考えることができる		3	自ら考えて工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導を重ねれば、工夫・改善が見られる	指導を重ねれば、工夫・改善が見られる	指導を重ねれば、工夫・改善が見られる	詳細な指導を重ねても、自らの工夫・改善が見られない
		3	プレゼン内容を総合的に理解できる		3	十分に理解できる	ある程度は理解できる	部分的に理解できないところがある	部分的に理解できないところがある	理解できない	
		4	プレゼン内容を通して、大学での自らの成長や課題を客観的に整理できる		3	十分に成長がみられ、課題について整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	指導を重ねても、整理できない
		5	プレゼン内容を通して、将来自分が貢献したい「地域」における「活動」を語るることができる		3	具体的な活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	具体的な活動内容がない
合計点 (47/100)											

別紙② ルーブリック評価〈C表〉

〈C表〉

中部大学地域創成メディエーター資格申請 ルーブリック(C) 【発表会当日に評価員が記入】

被評価者氏名	学籍番号
--------	------

評価委員	所属:	氏名:	Ⓜ
------	-----	-----	---

区分	大項目	チェック	得点	小項目
プレゼン 当日	プレゼン内容が分かりやすい		A(3点)	内容が簡潔にまとめられていて理解しやすい
			B(2点)	内容は簡潔にまとめられているが、理解しづらい部分がある
			C(1点)	内容が簡潔にまとめられていないか、量が少なすぎるため、理解できない
			D(0点)	明らかに発表内容として不十分である
	プレゼン資料が見やすい		A(3点)	十分に工夫されていて分かりやすく、また効果的である
			B(2点)	工夫が少なく簡素ではあるが、理解できる
			C(1点)	資料不足あるいはまとめきれておらず、理解しづらい部分がある
			D(0点)	明らかに資料作成が不足していて、理解できない
	声の大きさが適切で、 身振りも使ってプレゼンができる		A(3点)	聞き取りやすい声で、身振りも使って発表ができる
			B(2点)	聞き取りやすい声ではあるが、身振りが少なく淡々と発表している
			C(1点)	声は大きいですが、早口で聞き取りづらい
			D(0点)	声が小さく、身振りも少なく、発表内容が分かりづらい
	プレゼンにふさわしい服装や姿勢、 視線、言葉遣いができる		A(3点)	いずれもふさわしいものである
			B(2点)	姿勢が悪く、下を向いているなど視線が定まっていない
			C(1点)	言葉遣いが悪く、言い直しが多い
			D(0点)	いずれもプレゼンにふさわしいものではない
	プレゼン内容に対しての 質疑応答ができる		A(3点)	質問に対して適切に答えることができる
			B(2点)	質問に対して時間は必要だが、答えることができる
			C(1点)	質問に対して適切に答えられない
			D(0点)	質問に対して全く答えられない
プレゼン内容を通して、 今後の自分のキャリア設計を 伝えることができる		A(3点)	具体的な内容を伝えることができる	
		B(2点)	曖昧な部分もあるが、ある程度は伝えることができる	
		C(1点)	キャリア設計と思われる内容はあるが、伝えられない	
		D(0点)	キャリア設計と思われる内容がない	
				合計点 [18点満点]

別紙③ 地域創成メディエーター学生発表会



文部科学省

地(知)の拠点

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組 春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業



中部大学 第7回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション

参加無料



2021 2/16(火)

14:00▶16:30 [13:30 受付開始]

中部大学不言実行館 1F アクティブホールほか

地域創成メディエーター資格とは？

地域の人と人をつ結びつけるメディエーター[mediator: 媒介者]となり、春日井市をはじめ地域の様々な問題に主体性をもって取り組み、中部大学の建学の精神「不言実行・あてになる人間」を身につけた学生に認定される資格です。



中部大学

主催／中部大学 後援／春日井市 お問い合わせ／中部大学 地域連携センター
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200 TEL.0568-51-1763 FAX.0568-51-1172
E-mail coc@office.chubu.ac.jp <https://www3.chubu.ac.jp/coc/> ※お申込みは裏面をご確認ください



「地域創成メディエーター」資格は、資格そのものが大切なのではなく、その道のりこそが学生自らにとって大事なことであり、「意義」と「価値」がある「行動」です。

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組
春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業
第7回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション

プログラム

- 14:00 開会挨拶：櫻井 誠 (中部大学 地域連携センター長)
- 14:05 学生によるプレゼン発表 [60分]
- 15:00 学生によるポスター発表 [60分] 2Fステージエリア
- 16:15 地域創成メディエーター認定証 授与式
- 16:25 閉会挨拶：戸田 香 (中部大学 地域連携センター副センター長)
- 16:30 閉会

*プログラム内容は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください

プレゼン発表

地域創成メディエーター資格に挑む学生が、これまでの知識修得と体験を振り返り、達成感や今後の課題、目標なども交え、自己成長について自らプレゼンテーションを行います。

ポスター発表

自己プレゼンテーション同様、ポスターを用いて自己成長について視覚的にPR。参加者の皆さまには学生と直接コミュニケーションをとっていただき、ご意見やアドバイスをお願いします。



中部大学へのアクセス

●JR神領駅からスクールバス

JR中央本線「神領(じんりょう)」駅下車
(名古屋駅より「普通」で約26分)、
北口「中部大学スクールバスのりば」から約10分

●JR高蔵寺駅から名鉄バス

JR中央本線・愛知環状鉄道「高蔵寺(こうぞうじ)」駅下車
(名古屋駅より「快速」で約26分)、
北口8番のりばより名鉄バス
「中部大学前」行に乗車(約10分)

●お車ご利用の場合

東名高速道路
春日井インターチェンジより約5分



お申し込み締切
2/10(水)

参加ご希望の方は、下記ご記入のうえFAXにてご送信ください。お申し込みはメール、お電話でも受けつけております。

ふりがな			
氏名			
勤務先 団体名			
所属		役職	
連絡先	TEL		
	e-mail		



中部大学

参加お申込み・お問い合わせ先：中部大学 地域連携センター

FAX.0568-51-1172 TEL.0568-51-1763 e-mail. coc@office.chubu.ac.jp



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC事業) (平成25年度採択)
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』

第7回地域創成メディエーター学生発表会 PLUS エクスプレッション

日時：2021年2月16日(火曜日) 午後2時00分～午後4時30分

会場：中部大学 三浦幸平メモリアルホール

主催：中部大学

後援：春日井市

14時00分～14時05分

開会挨拶 櫻井 誠 (中部大学 地域連携センター長)

14時05分～14時50分

地域創成メディエーター紹介 上野 薫 (中部大学 応用生物学部・准教授)

学生による自己プレゼンテーション

1 「どん底で見出した成長への鍵」

塔本 哲成 (工学部 都市建設工学科 3年)

2 「夢の実現へ向けて」

佐々木将冴 (応用生物学部 応用生物化学科 3年)

3 「5つの成長」

山口 貴誉 (工学部 都市建設工学科 3年)

4 「大学4年間でかかわった人たちから得られた価値観」

西田 宗平 (経営情報学部 経営総合学科 4年)

<休憩・移動>

15時00分～16時00分

学生によるポスター発表 ※詳細は裏面をご覧ください。

15:00～15:20 Aグループ 17名

15:20～15:40 Bグループ 18名

15:40～16:00 Cグループ 19名

<休憩・移動>

16時15分～16時25分

地域創成メディエーター認定証 授与式 石原 修 (中部大学長)

16時25分～16時30分

閉会挨拶 戸田 香 (中部大学 地域連携センター 副センター長)

****中部大学 地域連携センター****

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

Tel:0568-51-1763

2 活動報告

■学生によるポスター発表(2月16日)

NO.	学科	氏名	学年
A-1	都市建設工学科	柿田 陸	4年
A-2	欠番		
A-3	生命医科学科	小田垣まや	3年
A-4	都市建設工学科	北寺 優作	3年
A-5	欠番		
A-6	国際学科	真野 莉奈	3年
A-7	都市建設工学科	長坂 勇希	3年
A-8	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	松浦 瑞希	1年
A-9	都市建設工学科	吉田 圭佑	3年
A-10	生命医科学科	深川 裕香	3年
A-11	都市建設工学科	柏原 純菜	3年
A-12	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	佐藤 孝祐	2年
A-13	理学療法学科	永松 雅	3年
A-14	欠番		
A-15	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	森 清華	1年
A-16	生命医科学科	中野 実咲	3年
A-17	建築学科	田中 愛美	3年
A-18	都市建設工学科	平野 舜弥	3年
A-19	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	藤元 遼	2年
A-20	都市建設工学科	滝戸 凌我	2年

17名

■学生によるポスター発表(3月10日) 3名

NO.	学科	氏名	学年
D-1	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小林 瞭志	3年
D-2	作業療法学科	青島 実生	3年
D-3	作業療法学科	岩田 早永	3年

地域創成メディエーターポスター発表者(54名) / 地域活性化リーダーポスター発表者(2名)

NO.	学科	氏名	学年
B-1	都市建設工学科	小野玖太郎	3年
B-2	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	中村 朱里	2年
B-3	生命医科学科	小藪 秀明	3年
B-4	都市建設工学科	佐藤 楓	3年
B-5	経営総合学科	志賀 勇斗	4年
B-6	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	野中 百香	1年
B-7	都市建設工学科	山崎 魁斗	3年
B-8	環境生物科学科	江崎 颯真	3年
B-9	都市建設工学科	近藤 類	2年
B-10	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	濱田 玲奈	2年
B-11	建築学科	山田紗矢音	3年
B-12	環境生物科学科	林 美里	3年
B-13	歴史地理学科	芳賀 岳人	3年
B-14	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	松岡 莉花	1年
B-15	理学療法学科	前田 菜里	3年
B-16	生命医科学科	丹羽 晴香	3年
B-17	建築学科	早川 響	4年
B-18	欠番		
B-19	都市建設工学科	山内 一真	2年

18名

NO.	学科	氏名	学年
C-1	都市建設工学科	加藤 大喜	3年
C-2	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	野畑 明里	1年
C-3	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	菊地 彩奈	2年
C-4	都市建設工学科	田中 練	3年
C-5	生命医科学科	武田 祥也	3年
C-6	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	住田 彩華	1年
C-7	都市建設工学科	山下 頼樹	3年
C-8	国際学科	内田 優太	3年
C-9	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	森 清佳	3年
C-10	環境生物科学科	太田 日奈	3年
C-11	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	松田 志保子	1年
C-12	都市建設工学科	横山 民斗	3年
C-13	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	渡邊 由菜	1年
C-14	理学療法学科	額 悠太	3年
C-15	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	山本 愛梨	1年
C-16	生命医科学科	藤田 望月	3年
C-17	建築学科	飯田 真衣	3年
C-18	理学療法学科	浦 航平	3年
C-19	都市建設工学科	長谷川直輝	2年

19名

■地域活性化リーダーポスター発表(2名)

NO.	学科	氏名	学年
C-20	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	藤元 遼	2年
C-21	都市建設工学科	滝戸 凌我	2年

地域創成メディエーターポスター発表者(合計57名)

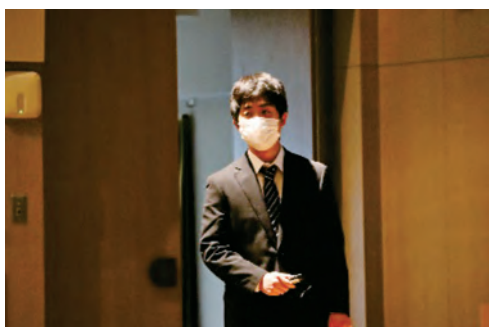
[第7回地域創成メディエーター学生発表会] の様子 ～2021年2月16日(火)～



開会挨拶 櫻井誠
(中部大学教授 地域連携センター長)



学生によるプレゼンテーション 1



学生によるプレゼンテーション 2



聴衆からの質疑応答



学生によるポスター発表



評価員による評価



資格認定授与式 石原修 (中部大学長)



口頭発表・ポスター発表学生合同記念撮影

別紙④

第7回 中部大学 地域創成メディエーター学生発表会 PLUS エクスプレッション アンケート集計結果

開催日：2021年2月16日（火） 14：00～16：30

場所：中部大学 三浦幸平メモリアルホール

参加者数：一般6名 教職員49名 学生4名

地域創成メディエーター候補学生58名 計117名

回収数：12名

- 1. 性別** 1. 男性（8名） 2. 女性（4名）
- 2. 年齢** 1. 29歳以下（2名） 2. 30代（2名） 3. 40代（3名） 4. 50代（2名）
5. 60代（1名） 6. 70歳以上（2名）

3. 所属

1. 一般市民（1名） 2. 教育関係機関（0名） 3. 地方自治体（0名） 4. 企業（2名）
5. NPO・市民団体（0名） 6. 大学教員（2名） 7. 大学職員（3名）
8. 学生（1名） 9. CAAC受講生（1名） 10. オープンカレッジ聴講生（1名）
11. その他（1名）

4. この「地域創成メディエーター学生発表会」を何でお知りになりましたか

1. ホームページ（4名） 2. チラシ（3名） 3. 広報春日井（0名）
4. 所属関係者からの案内（7名） 5. その他（1名）

5. この「地域創成メディエーター学生発表会」全体のご感想をお聞かせください

1. とてもよかった（9名） 2. よかった（1名） 3. 普通（0名）
4. やや不満（0名） 5. 不満（0名） 無回答（2名）

6. この「学生発表会」の会場や運営はいかがでしたか

- 会場** 1. 良い（8名） 2. やや良い（1名） 3. 普通（1名）
4. やや悪い（0名） 5. 悪い（0名） 無回答（2名）
- 運営** 1. 良い（8名） 2. やや良い（1名） 3. 普通（1名）
4. やや悪い（0名） 5. 悪い（0名） 無回答（2名）

7. 学生の自己プレゼンテーションを踏まえ本学教育実践に対するご意見ご感想がございましたらお聞かせください

- ・学生さんへのきっかけの提供ができる良い試みだと思います。
- ・去年からの一年間「すごもり生活」でうんざりしていましたが、久しぶりに社会に触れ、刺激を受けることが出来ました。
- ・ポスター発表が多くて2回だったので、3回くらい発表できるようにコンパクトにまとめるように指導してはどうか。
- ・皆さんわかりやすく発表されており好感が持てました。

- 1年次の内から、このような自己表現ができる場と環境を整えておられる事、とても素晴らしいと思います。学生の皆さんのご活躍を期待しています。ご指導された先生方、事務局の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ぐうぴい広場での、お客さんとのコミュニケーションを取る大切さなどが分かったと言って頂けて良かったです。
- 先輩方の発表を見て、自立心の向上や、自分自身がより成長できる場となっていると思った。いろいろなことが経験でき、将来につなげられるような体験がたくさんできるんだなと感じた。

8. その他ご意見ご要望などございましたらお聞かせください

- 中部大学の名にふさわしく、中部地方を代表する大学に育って欲しい。
- 学生による自己プレゼンテーションは発表者の学科が重ならないとよろしいかもしれません。女子学生の発表も拝聴できると良いですね。

2021年2月16日実施

(2) ワーキンググループ等報告

- ① 正課教育WG
- ② 生活・住環境を考えるまちづくりWG
- ③ 世代間交流プログラムWG
- ④ C A A C運営委員会

① 正課教育WG

1. 活動組織

委員長	上野薫
副委員長	伊藤守弘
委員	竹内環、山羽基、伊藤佳世、羽後静子、小川宣子、牧野典子 (櫻井誠)

2. 活動計画

5月-7月	「地域共生実践」春学期3クラス授業（遠隔授業）
4月-9月	地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し
4月-3月	地域創成メディエーターへの導き（広報活動）
4月-3月	関連科目担当者に対するAL/TBL勉強会の実施
4月-8月	「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討
8月-9月	春学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
8月-9月	地域創成メディエーター申請様式検討
9月-1月	「地域共生実践」秋学期5クラス授業（遠隔授業）
10月	地域創成メディエーター申請開始
11月	地域創成メディエーター審査（プレゼンテーション候補者の選出）
11月-12月	地域創成メディエーター説明会開催
12月-2月	地域創成メディエーター学生発表会
2月-3月	秋学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
2月-3月	「地域創成メディエーター」認定

3. 活動成果

総括：全学的な新型コロナ対応として、講義開始時期が5月になった。「地域共生実践」は全て遠隔実施とした。本科目はグループワークが主体であるため、対面実施の場合にリスクが高いと判断したためである。学科や学生個人によりGSEやZoomなどの遠隔教育システムへの対応可能度には差があるため、CoursePowerを主として資料配布、グループ間での意見共有などにより運営した。Zoom等を用いたリアルタイムでのグループワークも一部試みられたが、利用に慣れない学生が多く、手段としては効率的ではなかった。履修者の傾向としては、学年に関係なく、春学期は急なコロナ対応でも取得単位につなげようと前向きに考える学生が多く、受講にも緊張感が感じられた。しかし、秋学期はそのような緊張感がある学生と、途中からレポート未提出が続いた学生との二極化が見られた。メディエーター資格への学生の履修時での目的意識は例年よりは少し低いように感じられ、これは長期化する新型コロナの影響で、まずは単位取得をと考える学生が多いのではと思われた。

2019年度でのCOC+の終了に関連し、地域創成メディエーター輩出に関わる作業の簡略化や質の確保などが議論に挙がり、当初よりメディエーター資格申請時及び評価時に活

用してきたルーブリック各種について、一部から簡略化の検討を求められた。しかし、ルーブリックはメディエーター資格の質の担保として重要な役割を果たしていることから、今回は簡略化しないこととなった。一方で、学生自身が本資格に挑戦しやすくなる状況を創出するため、資格エントリー時での「地域共生実践」の取得については、必須から選択科目に変更することとした。さらに、次なる教育システムのステップアップのためのスタッフ側の余力を産むために講義開講数削減についても検討したが、2021年度については必須科目が選択科目になったことによる履修者数の推移や学生のエントリー数を確認し、そのうえで2021年度に再検討することとした。

項目別：

- 5月-7月 「地域共生実践」春学期3クラスの授業運営を実施した。
(履修者 68+65+72=205名、教員4名)
- 4月-3月 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し：委員会等により簡易化の意見が出たが、資格の質の最大の担保であることから昨年通りで実施した。
- 4月-3月 地域創成メディエーターへの導き（広報活動）：オリエンテーションでのパンフレット配布・説明などを行った。
- 4月-3月 AL/TBL 勉強会については、コロナ禍のため、対面式集会には参加できなかった。各自でPBLゼミ、学外フォーラムに関わる遠隔参加を実施した。
- 4月-8月 「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討：委員会等により意見を収集したが、大きな問題は認められなかったため昨年通りで運営した。
- 8月-9月 春学期終了後、担当者間で春学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、秋学期の協力者の勧誘を行った。
- 8月-9月 地域創成メディエーター申請様式検討：本年度は変更の意見がなく、昨年同様の様式での実施となった。
- 9月-1月 「地域共生実践」秋学期5クラスの授業運営を実施した。
(履修者 77+78+80+80+79=394名、教員9名)
- 1月-3月 秋学期終了後、秋学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、次年度の協力者を勧誘した。
 - 10月 地域創成メディエーター申請を予定通り開始した。
 - 11月 地域創成メディエーター審査（プレゼンテーション候補者の選出）を予定通り実施した。
 - 12月 「地域共生実践」受講生への「地域創成メディエーター」説明会を開催（2回実施）した。「動く」指導担当教職員へのポスター作製における指導を昨年と同様に具体的に実施し、配布資料にも明記した。
- 1月-2月 口頭発表練習を実施し、プレゼンテーションの本質的な目的や具体的な方法について指導するとともに、学生同士での学びの機会を与えた（2021年1月22日で1回目を、2月15日に2回目を実施）。
 - 2月 地域創成メディエーター学生発表会の実施（+エクスペッション、2021年2月16日および3月10日の2回で実施）。

2月-3月 「地域創成メディエーター」認定予定（61名）。昨年より若干少ない人数ではあるが、自主性の高い候補者の輩出を予定している。

4. 今年度の課題・次年度の目標

コロナ禍ではあるものの、2020年度における地域創成メディエーター資格へのエントリー数は、無理のない学生主体の希望数に近い値であったと考えられる。2021年度には、2019年～2021年度のエントリー数や「地域共生実践」の履修者数を精査し、2022年度の開講数や人数などについて議論し、学生と教員職員にとって有意義な運営体制にしたい。また、講義における Zoom や GSE の活用についても各教員の裁量で、再度チャレンジしつつ対面実施のしづらい社会状況下でのグループワーク中心の講義の在り方について検討を続けたい。



② 生活・住環境を考えるまちづくりWG

1. 活動組織

- 委員長 磯部友彦
副委員長 松山明
委員 岡本肇 余川弘至 横江彩 尾鼻崇 林良嗣 小川宣子

2. 活動計画

- 9～12月 春日井市の産地直売ひろば「ぐうぴいひろば」(JA尾張中央と連携)の活性化
- 10月 タウンウォッチング(学外)の実施
- 10～12月 地域交通に関する調査の実施
- 10月 春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズにボランティア参加
- 通年 演習・ゼミナールのテーマとして現実の地域課題を取り上げる。
- 通年 卒業研究のテーマとして地域課題に対する解決方法に取り組む。
- 通年 地域の人々との十分なコミュニケーションを交えた学生の自主活動を促進する。
- 通年 過年度の地域志向研究経費による活動のフォローアップをする
- 通年 地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。

3. 活動成果

1) 正課としての活動

- a. 都市建設工学科「部門創成B(3年生科目)」において現地視察等を実施。

10月20日 春日井市役所ならびにJR春日井駅周辺(磯部友彦担当)【参加者:学部生10名、院生1名】

- b. 建築学科「ゼミナールA、B(3年生科目)」、「地域住宅計画(3年生科目)」、「建築・都市計画演習(3年生科目)」において現地視察等を実施

6月15日 ゼミナールA 小牧市城山5丁目(グリーンテラス城山)、春日井市十三塚町(プログレスビレジ春日井中央)(松山明担当)【参加者:学部生11名】

6月29日 ゼミナールA 小牧市光が丘5丁目(グリーンテラス光が丘、C'sタウン光が丘)(松山担当)【参加者:学部生11名】

7月6日 ゼミナールA 名古屋市守山区下志段味字生下り(シティハイツ志段味)(松山担当)【参加者:学部生10名】

7月18日 ゼミナールA 岐阜県多治見市滝呂町(滝呂団地)、可児市桜ヶ丘・臈ヶ丘・桂ヶ丘(桜ヶ丘ハイツ)、名古屋市緑区伝治山一丁目(グローブガーデン野並南)、名古屋市天白区表山三丁目(八事下池住宅)(松山担当)【参加者:学部生10名】



春日井市役所現地視察

- 7月20日 地域住宅計画(春日井市 JR勝川駅周辺)(松山担当)【参加者:学部生8名】
- 10月31日 ゼミナールB 名古屋市港区浜一丁目、熱田区一番一丁目、熱田区尾頭町、中区新栄三丁目(王子地区)、北区名城三丁目(市営城北荘)(松山担当)【参加者:学部生10名】
- 11月24日 建築・都市計画演習 名古屋市中区錦二丁目周辺(長者町)(坪井俊和、松山担当)【参加者:学部生27名】
- 12月2日 ゼミナールB 春日井市桃山町(市営桃山住宅)、春日井市北山町(北山住宅)(松山担当)【参加者:学部生10名】
- 12月16日 ゼミナールB 春日井市東山町(桃花園)(松山担当)【参加者:学部生9名】
- 1月20日 ゼミナールB 春日井市東山町(桃花園)(松山担当)【参加者:学部生9名】



名古屋市港区浜一丁目



名古屋市王子地区



名古屋市中区錦二丁目

2) 各学科の卒業研究

- a. 都市建設工学科での卒業研究において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生35名】
- b. 建築学科での卒業研究、卒業設計において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生39名】

3) 地域志向教育研究活動フォローアップ

- a. 春日井市の産地直売ひろば「ぐうびいひろば」(JA尾張中央と連携)での活動(小川宣子担当)【参加学生12名】

品種が異なる4種類の米の特性を、加熱吸水率・膨張容積・溶解度・水分・炊飯による飯の品質の変化の5項目について分析。その分析に基づいた最適な料理の提案。

9月17日、18日 実験の実施。

9月20日、21日 料理の提案の検討。

- 10月23日 ファーマーズマーケットぐうびいひろば内で研究成果発表。説明用チラシの配布と、プレゼンが収録されたDVDの放映。



JA尾張中央のHPに掲載されたチラシの内容

4) 地域創成メディエーターの育成

下記に示す「動く」の活動を通じて、地域創成メディエーターを育成した。

a. 高蔵寺ニュータウンの定点観測(磯部友彦担当)

- ・ニュータウン内に設置されている施設などの多様性を観察し、さらにそれらの変化を感じ取る。

11月29日 サンマルシェ、高森台の観察

【参加学生 11名】

12月5日 高蔵寺駅周辺、高座台、水辺公園の観察

【参加学生 5名】

12月8日 グルッポふじとう、藤山台の観察

【参加学生 10名】

12月19日 石尾台、押沢台の観察 【参加学生 3名】

・高蔵寺ニュータウンの定点観測事前勉強会(松山明担当)

11月20日 高蔵寺ニュータウンが造られた経緯、事業制度としての土地区画整理事業、住区構成理論の近隣住区論、建設された住棟・住戸型の推移、居住者の年齢別人口推移、現在の課題点などを学び、定点観測に備える。【参加学生 2名】



グルッポふじとうの見学

b. 学生主体の標準化教育(伊藤佳世担当)

学生主体の標準化教育を学び、青少年支援を行い、学生の主体性及び標準化教育とはどのようなものかを理解し、一人一人の成長に繋げる。

12月18日～1月17日 環境省のエコライフフェアに出展。「エコライフフェア 2020 online 春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業 中部大学」

1月18日～3月31日 名古屋市消費生活フェアに出展。消費生活フェア☆2020 オンライン展示会：名古屋市消費生活センター情報ナビ 【参加学生 60名】



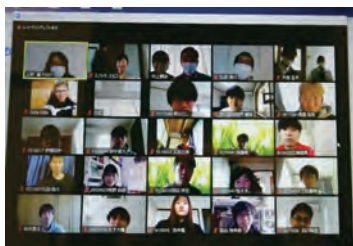
教材ポスター 会社を守ろう with コロナ

c. 新・森の健康診断(上野薫担当)

「人工林の荒廃」について、現状理解と課題解決に向け、森林調査・課題解決の提案作成と発表をグループワークにより実施する。

12月5、6日 座学・グループワーク・発表会 三郷コミュニティセンター (学生は全員 Zoom によるリアルタイム参加) 【参加学生 27名】

1月9日 森林観察・間伐体験 恵那キャンパス・東濃牧場周辺の森林 【参加学生 6名】



ZOOMによるグループワーク



森林観察・間伐体験

- d. 春日井市における産地直売所を介した地域活性化への取り組み（小川宣子担当）

地域の産地直売所の現状から課題を抽出し、大学生ができる課題解決を提案し、実践する。

内容は、上記3)に記載。【参加学生12名】

- e. 春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズ（松山明担当）

春日井まつり開催時において建築士会春日井支部主催のイベントに参加し、児童に対して住宅模型作成のお手伝いをすることで、壊れにくい＝構造的に成立し、外観も良い住宅の在り方を再検討する。

春日井まつりの中止により、実施できなかった。



ぐうびいひろばでの活動の様子

4. 今年度の課題・次年度の目標

- 1) 卒業研究、卒業設計のテーマ選定において、多様な地域の課題を考慮する。
- 2) 受講科目の指導を含めて地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。
- 3) 地域課題への取り組みを、教員だけでなく学生・院生を交えて活発化させる。
- 4) 春日井地域での活動経験をもとに、他地域での活動にも積極的に取り組む。

③ 世代間交流プログラム WG

1. 活動組織

委員長	堀文子
副委員長	戸田香
委員	保黒政広 長島万弓 野田明子 三摩真己 末田智樹 伊藤守弘 宮下浩二 尾方寿好 横手直美 矢澤浩成 谷利美希 北辻耕司 松村亜矢子

2. 活動計画

9月19日(土)	体力測定会(中止)
9月19日(土)	栄養教室 ⇒ 栄養・食事指導 に変更(中止)
9月19日(土)	睡眠・物忘れ相談、動脈硬化検査(体力測定会時中止)
10月11日(日)	松本町との交流(中止)
10月17日(土)	福祉用具体験セミナー(中止)
10月10日(土)、11月28日(土)	アクティブシニアとの交流活動(リモート)
7月～3月	KCGサークルでの健康教室指導
7月～2月	睡眠・物忘れ相談 高蔵寺集会場他 月1回
7月～2月	在宅訪問・遠隔相談 月1-2回
未定	地域イベントに対するボランティア活動(救護・消防団)(中止)
随時	取材活動(特記すべき活動無し)
未定	看護学生による乳児と母親に対する「子育てセミナー」
9月1日～	地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取り組み
未定	高校運動部活動支援講習(計画変更・中止)
12月～	障がい者スポーツのすすめ(活動無し)

3. 活動成果

開催日時・方法

- 1) 健康寿命延伸・認知症と生活習慣病予防のための快眠・運動教室(企画担当:野田明子)
COVID-19感染症重症化と運動不足に伴う心血管病の予防
7月～3月 健康相談 大学・高蔵寺集会場他 月1回



- 2) アクティブシニアとの交流活動(リモート) (企画担当:谷利美希)

第1回:10月10日(土)13時30分～14時15分(参加学生4名 教員5名)

第2回:11月28日(土)13時30分～14時15分(参加学生4名 教員3名)

本活動は、理学療法および作業療法学生が、世代の異なる高齢者の特徴や生活状況を理解し、コミュニケーション能力や状況判断力を養うために実施している。今年度は、感染症予防対策のため、Zoomによるオンラインシステムを利用し、地区社協主催「珈琲

サロン」の現地と学生の自宅を繋いで開催した。参加学生は、地域在住高齢者からコロナ禍の生活状況や趣味の話などを聞くことができ、高齢者の生活実態を垣間見ることができた。また学生は、会話する際の言葉遣いや傾聴の仕方などに具体的な課題を体感し、将来の臨床に通じるコミュニケーション体験の場となった。高齢者からは、感染症予防のため世代の異なる者との交流を避けざるを得ない状況の中、有意義な楽しい時間を味わうことができた、との感想をいただいた。今後も、教育的効果の検証や高齢者にとっての世代間交流の意義を検討しながら、可能な形で世代間交流を継続していく予定である。



3) 地域連携健康教室「KCGサークル」 (企画担当：矢澤浩成)

月2回開催（4月～9月は感染拡大のため中断、10月から再開し継続中）

KCGサークルは、地域在住高齢者・理学療法学科学生・教員で構成された健康増進サークルであり在籍数は約50名である。具体的な活動内容は、健康増進のための体操の指導・レクリエーション・ディスカッション等である。この活動により高齢者の身体的および精神的な健康維持増進と、理学療法士を志す学生の準医療人としての自覚と臨床力向上という相乗効果が得られ、さらに高齢者と学生がお互いに尊重し支えあう関係が構築され、地域活性化につながる期待感が高まった。また、4月から9月は感染拡大のため活動を一時中断したが、10月には感染予防対策についてメンバーで検討を重ね、安全で安心な活動として再開することができた。



4) 子育てセミナー (企画担当：横手直美)

【第1回】 2020年11月 4日（水曜日）13時00分～14時30分

ベビーマッサージ： 春日井市民病院助産師 奥田浩子

ママのストレッチ： 中部大学 保健看護学科 准教授 横手直美（助産師）

子育てミニレッスン「赤ちゃんの発育発達とおもちゃの選び方」

中部大学 幼児教育学科 講師 千田隆弘

参加人数：乳児14人とその母親14人、保健看護学科学生7人、幼児教育学科学生5人

【第2回】 2020年11月27日（金曜日）13時00分～14時30分

ベビーマッサージ： 春日井市民病院助産師 吉田明恵

ママのストレッチ： 中部大学 保健看護学科 准教授 横手直美（助産師）

子育てミニレッスン「赤ちゃんのもしものときの備え」：

中部大学スポーツ保健医療学科 助教 北辻耕司（救急救命士）

参加人数：生後2か月～10か月の乳児18人、その母親18人、保健看護学科学生4人、
スポーツ保健医療学科学生3人



写真1：ベビーマッサージ配信の様子 写真2：乳児の心肺蘇生方法 写真3：Zoom上での集合写真

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを利用して「子育てセミナー～産後のママと赤ちゃんをオンラインで応援 ベビーマッサージ&ママのストレッチ&子育てミニレッスン♪」を2回開催した。春日井市民病院および本学の模擬保育室、521A 実習室よりライブ配信を行った。春日井市子ども政策課には広報活動でのご協力を得た。子育てセミナーは10周年で初のオンライン開催であったが、ご家族で参加した方も多く、自宅のリラックスした環境で感染の心配もなく参加でき、運動と育児教育を学び、助産師への相談もできてよかったと好評であった。保健看護学科に加え、幼児教育学科、スポーツ保健医療学科の学生がアシスタントとして、現地またはオンラインで参加し、多学科の学生が協同で、各学科の専門性を活かした子育て支援を経験することができた。

5) 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み(企画担当：尾方寿好)

高蔵寺ニュータウンの藤山台にあるグループふじとうにて、毎週火曜日の14:45～17:00にシニア（13名）と小学生（13名）を対象とした運動教室のそれぞれを実施した。新型コロナウイルス感染症予防のため4月～6月は休みとしたが、その後に再開し、特に問題なく運動教室を実施することができた。この教室では、スポーツ保健医療学科の学生4名が運動指導を行った。キャリア開発のみならず、世代間交流を通じたコミュニケーション能力の向上など、学生にとって様々な学びがあったと思われる。この教室は2020年度が3年目となるが、今後も運動教室を継続し、学生のキャリア開発につなげていきたい。

4. 今年度の課題・次年度の目標

今年度は、COVID-19感染症の流行により対面での活動が制限され、中止した活動が多くなった。そのような中でも感染予防に努めながら、様々な工夫により活動を行えたグループもあった。地域貢献活動として、遠隔企画や人数制限などの感染予防策を講じながら開催ができ、学生はそれぞれの体験から実践的な学びの機会が得られたと思われる。また、地域創成メディエーターの「動く」として予定していた活動が中止となった学生の中には、開催できた活動への参加により申請が可能となった学生もあり、良かったと思っている。

次年度は、感染予防に努めながらも、安心して交流会が開催できる状況になることを期待しつつ、地域貢献活動としての世代間交流が継続されていくことを期待している。学生にとっても、身近に触れ合うことが少なくなっている「シニア」「ベビーとその家族」また、学科を超えた交流は、多くの学びの機会になっていると思われる。

地域の参加者は多くはないものの、活動の認知は継続されていくことが期待されるため、今後も計画及び啓蒙活動を積極的に実施していきたいと考える。その結果として、企画側も参加者も立場に応じた目標や課題を意識して、今後活かされることを期待している。

以上

④ CAAC運営委員会

1. 活動組織

委員長	辻本雅史					
副委員長	對馬明					
委員	羽後静子	櫻井誠	林上	末田智樹	甲田道子	伊藤正晃 大嶽成功 出口良太 大竹雄平

2. 活動計画

4月～7月	CAAC春学期授業開講※
4月～6月	CAAC 7期生募集（新聞・HP広告等）、募集要項の配付・発送
5月8日(金)	
～6月30日(火)	CAAC 7期生出願期間
7月15日(水)	CAAC 7期生面接試験日
9月16日(水)	CAAC 7期生入学式
9月～3月	CAAC秋学期授業開講（7期生のみ）※
10月6日(火)～7日(水)	CAAC 7期生オリエンテーション合宿（新穂高山荘）

※新型コロナウイルス感染拡大のため、在學生（5期生と6期生）は通年（2020年4月～2021年3月）休講措置とした。なお、新1年生（7期生）は9月から開講中である。今後の5期生～7期生および研究生の予定は下表のとおりである。

受講生区分	在籍者数	2019年度CAAC休講	2020年度		2021年度	
		(2020年)4月～ (2020年)8月 (春学期)	(2020年)9月～ (2021年)3月 (秋学期)	(2021年)4月～ (2021年)8月 (春学期)	(2021年)9月～ (2022年)3月 (秋学期)	(2022年)4月～ (2022年)8月 (春学期)
新1年生(第7期生)	4人	—	受講中	受講予定	受講予定	受講予定(修了年度)
1年生(6期生)	5人	休講	休講	受講予定	受講予定	受講予定(修了年度)
2年生(5期生)	7人	休講	休講	受講予定(修了年度)	—	—
研究生(2019年9月～)	13名	休講	休講	受講予定(研究修了年度)	—	—

3. 活動成果

1. CAAC開講状況

上述の通り、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年度CAACは通年（2020年4月～2021年3月）の全授業を開講しなかった。なお、7期生に対しては2020年7月に面接試験、9月に入学を挙行し、授業を開始している。したがって、2021年4月から1年生は6期生（5名）と7期生（4名）の計9名の体制で春学期の開講を予定している。また5期生の2年生（7名）と研究生（13名）の計（20名）も2021年4月から開講し、昨年度延期となっていた学習成果(修了)発表会は7月に、修了式は8月に開催する予定である。

2 活動報告



7期生入学式



同 入学式



オリエンテーション合宿



講義「国際社会を見つめて」



講義「地域の安全と防災」



講義「高齢者福祉と介護保険法」

2. CAAC入学者募集

中部大学の広大で自然豊かなキャンパスで、新たな友と新たな学びを始められる楽しさ、魅力を伝えられるように新たなリーフレットの作成を行った。また、インターネットへのアクセスを容易にし、CAACをより検索しやすくするようにした。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、入学者は過去最低の4名にとどまった。

3. CAACの運営

CAACは‘人生100年時代’という言葉が一般に広まる以前、大学生との共育を通してシニア世代の第2の人生が豊かで活力あふれ、あてにする人からあてにされる人を社会により多く輩出することを目指して2014年に開校した。したがって、CAAC事業は世代間乖離を解消し、シニアが社会の一員としていつまでも活躍できる持続可能な社会を創造するという理念に基づいて展開してきた。しかし、今後さらに我が国では学び方のみならず、学ぶ者の年齢が多様化していくことを踏まえ、CAAC運営委員会（2020年10月29日開催）において今後のCAACの在り方について議論し、さらに2020年度第51回COC推進委員会に諮りCAACの入学年齢制限（現行50歳以上）を撤廃することとなった。

CAACの運営方針は、本学が目指すリカレント教育の先駆けとして今後も運営委員会などで検討していく必要がある。

4. 今年度の課題・次年度の目標

CAACの受講生の募集をさらに積極的に展開したい。具体的には下記のとおりで検討している。

- i) CAAC講演会等の開催
- ii) 自治体等窓口へのリーフレット配布

- iii) 老人会等へのリーフレット配布
- iv) 春日井商工会議所登録企業の退職者向け講習会開催

また、CAACの入学年齢の撤廃をすることによる課題と目標は以下のとおりである。

- i) 入学希望者の動向調査
- ii) 科目の選定と新設科目の検討
- iii) CAAC (Chubu University Active Again College : 中部大学生き生きカレッジ) の名称変更 (入学者の年齢を検討の上)

以上、CAACの発展のため関係各位には引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

(3) その他プロジェクト活動報告

- ① PBLゼミ
- ② COC+参加大学共通プログラム
「オータムスクール」

① PBLゼミ



PBLゼミ 2020

地域・社会で活躍したい! その一歩を応援します

「PBLゼミ」は、地域を学びの材料とし、学生自身が自分の持ち味を發揮して
地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習です。
グループワークを通して自分の新たな一面も見つかるかも?! 気軽にご参加ください。

< 2日間連続プログラム >

無料

両日とも13:00~16:30(予定)

9/ **23**日(水)
24日(木)

場所: オンラインで実施 インターネットにつながったパソコンが必要です。
ない場合は要相談(スマホ・タブレット不可)

対象: 全学部生 締切: **9月4日(金)**

定員: 40名(定員になり次第終了)

申込方法: 氏名・学籍番号・学年・
携帯番号をEメールでお知らせください



※ 新型コロナウイルス感染状況等により変更する場合があります。

※ PBLゼミは、地域創成メディアーター「学ぶ」のキャリア教育科目に読み替え可能(単位認定無し)

学習 テーマ	「自分が何かを学ぶときのスタイルを探求する」 「自他の価値観について探求する」 「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」 「課題解決のプロセスを体験する」 etc.
-----------	--



中部大学 中部大学 地域連携センター(キャンパスプラザ2階) ☎ <https://www3.chubu.ac.jp/coc/>

✉ E-mail: coc@office.chubu.ac.jp 担当: 羽山・早川 (TEL 0568-51-1763)

中部大学 御中

2020 年度
PBL ゼミ 2020
アンケート集計結果
報告書

2020 年 9 月
株式会社ラーニングバリュー

『PBLゼミ 2020』アンケート集計



目次

プログラム概要	3
---------	---

今回のプログラムに関するアンケート

【受講前アンケート】	4
Q 1. このプログラムに期待していますか？	5
Q 2. PBLゼミに参加を決めた理由をお聞かせください	8
Q 3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていますか？	10
【受講後アンケート】	11
Q 1. このプログラムに満足しましたか？	12
Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？	15
Q 3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？	18
Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？	21
Q 5. このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？	24
Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？	27
Q 7. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていますか？	30
Q 8. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください	31
Q 9. この授業について感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください	33
【受講前・後比較】	36
Q : それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていますか？	

*アンケートのフリーコメントについては、学生が入力したままを再現しています

プログラム概要

■プログラム対象

講座希望者

■実施日

2020年9月23日(水)～24日(木)

■アンケート回答者数

受講前／47名

受講後／46名

■プログラム内容（オンライン）

中部大学 オンラインPBLゼミ2020

	1日目		2日目
13:00	①オリエンテーション	13:00	①チェックイン
	②個人ワーク・グループワーク ・ネームプレートの作成 ・実習「記者会見」 実習のふりかえり わかちあい		②グループワーク ・実習「コミュニケーションについて」 個人決定 グループ決定 解説
	休憩		休憩
	③個人ワーク ・実習「ライフポジションについて」 解説		③グループワーク ・実習「課題解決実習」(朝刊に間に合わせろ) ふりかえり わかちあい
16:30	④まとめ	16:30	④まとめ

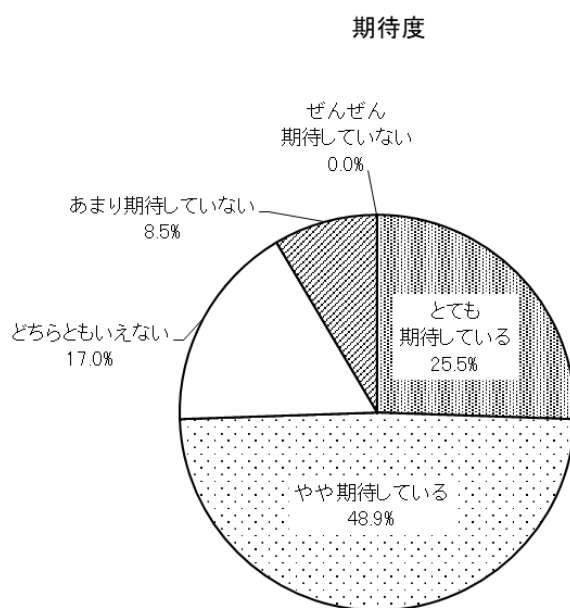
禁無断複製・無断使用 ㈱ラーニングビュー

『PBLゼミ 2020』アンケート集計



受講前アンケート

Q 1. このプログラムに期待していますか？それはなぜですか？



期待度		とても期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	ぜんぜん期待していない	無回答
全体	47	12	23	8	4	0	0
		25.5	48.9	17.0	8.5	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

フリーコメント

【とても期待している】

いろいろな人と関わることができ、コミュニケーション取れると思うから。
グループワークなどがあるとのことで、コミュニケーション能力を高めれるのではないかと思ったため。
企業の面接や今後社会人になるために必要になってくるから。
自分の今のコミュニケーション能力や、協調性がどのくらいか、そして足りないところが何かを見つけ出せると思うので、期待しています。
自分の将来に役立つ内容だと思ったから。
自分の適応能力が試せるから
自分らしさを見つけられる、リーダーシップを獲得できるとお聞きしたため
就職活動などに向けて、コミュニケーション能力の向上をしたいと思っているため。
地域との交流や学びに興味があるから
地域と社会に選ばれる地域創生メディエーターの資格は実践力・応用力・人間力が必要なため、課題解決型学習のPBLゼミを通して実践的思考を鍛えたいと思いました。そのためとてもPBLゼミには期待しています。
地域のことを知るきっかけになるし、このプログラムで何かしらを得て、自己のレベルアップに繋がるから
友人と共に食にまつわる実験ができ、 詳しい知識を身につけられるだろうと期待しています。

【やや期待している】

あまり人と話すのが得意では無いので、これを機に少しでも話せるようにしたい。
いろんな人たちと交流できるから
グループワークをあまりしたことがないため、このゼミを通してグループワークを積極的に行いたいと思っている。
グループワーク力の向上
このゼミを通してコミュニケーションを行ったりして自身の能力向上につなげたい
コミュニケーション能力を身につけることができると思うから。
メールで好評であると書いてあったから。
より多くの人と関わることができると思うから。
学部や学年が違う人と交流ができるから
自分以外の人の考えを聞くのが楽しみなため
自分自身、このゼミを通して、どのような力が身につけられるのか楽しみであるからです。
自分自身について知る
実験や講義を通じてさまざまなことを学ぶことができるからです。
就職に有利な資格が取れるから

初めて受ける授業だから。
人とうまく話せるといいと思っています
前回休んでしまったがいいものだと感じた記憶がある
他学科の人や、他学年との交流ができると聞いたから。
多くの学生が集まる機会なので、新しい経験が出来そうだから。
地域や自分の周りの人たちなどに関わるための力をつけるためにどのようなことをするのか学ぶことができるから。
地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることが出来るから。
友達から面白いと聞いたから
話し合いを通して多くの人の意見を聞くことが出来るから。

【どちらともいえない】

zoomでの開催のため、コミュニケーションをとることが難しそうだから。
あまり理解していないため
オンラインがあまり好きではないのと、少し時間が長いと感じた
どのようなことをするのか分かっていないため。
まだどのような講義をするのか理解をしていないため。
具体的に何をするのかわかっていない
県外で働くときにも使える資格なのかまだわからないから。
特になし

【あまり期待していない】

ZOOMでのやり取りは実感を得にくいと思うから
このゼミについてあまり詳しくない為。
なにをやるのかよく確認しなかったから
卒業単位をとれるから。

「PBLゼミ 2020」アンケート集計

Q2. PBLゼミに参加を決めた理由をお聞かせください

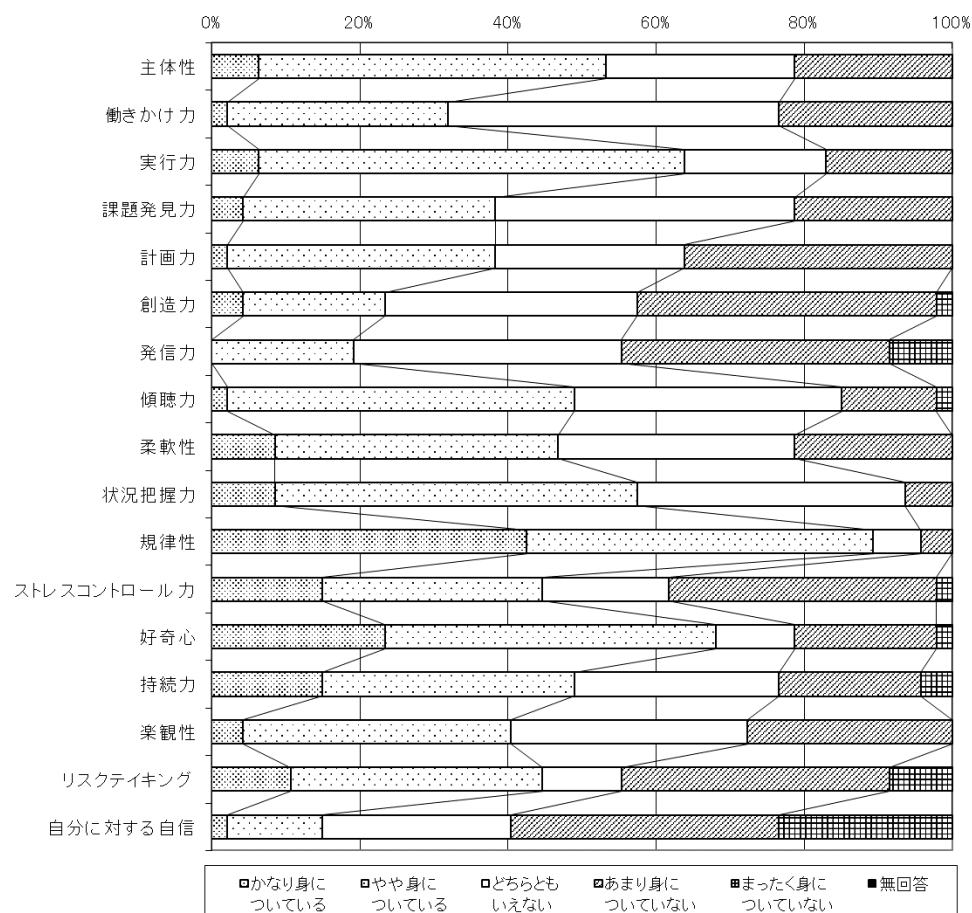
フリーコメント

資格の取得のために必要だったため
COCの取得を考えており、キャリア教育科目の読み換えとなるため。また、他学科の人とコミュニケーションが取れる良い場であると思ったため。
COCの単位取得のため
いろいろな人とコミュニケーションをとることや、一つの課題に向かってみんなで取り組むことは今後も必ず自分のためになると思うので、参加しました。
グループワークをあまりしたことがなく経験しておきたいから。
コミュニケーション能力を高めたい
ゼミの内容が興味深かったから。
メディアーターの活動をすることで自分に必要な知識や技術が学べると思ったため。
メディアーターの資格を取るために必要だったから。
案内で知って受けてみたいとおもった
勧め
経験したことがないことに挑戦したいと思ったから。
研究室の先生に勧められて。
高校の時に地域との交流を主としたボランティア活動などによく参加していて大学でもこのような地域との交流や学びをしたいと思ったからです
参加したらいい事があると思い参加しました。
参加しないよりしたいなと思ったから
資格の取得のため
資格を取って将来に役立てたいから
資格を取るため。
資格を得れるということと、たくさんの人と触れ合うことができると思ったから。
資格取得につながるため。
資格取得のため
自分の可能性を広げたいから。
就職活動へ向けて自分の強み等を獲得したいと思ったため
初対面の人と話すことが得意でないので克服したいため。
人前で話す経験を得ることができるところ
先生が紹介してくれたため
先生づてにして参加しようと思った
先生にすすめていただき、とても興味が湧いたのと、このような貴重な体験ができることは、将来自分にとってプラスになるなと思ったからです。

先生の勧め
卒業に必要な単位が取れると聞いたから
他学部、他学科の人と交流したいと思ったから
大学生になり、いろいろな人が変わりたいと思ったから。
単位が貰えると聞いたから。
単位取得が可能だから
短期で資格をとれるから。
地域に対して何かアプローチできることを探していたため。
地域創成メディエーターの資格を取るため。
地域創成メディエーターの資格を取得したいため。
地域創生メディエーターの資格取得を目指しているため。
地域創生メディエーターの資格取得を目指すため、実社会に対応するリアルな問題に対峙する課題解決型の仕事に必要な共同作業の能力を養い、実践的思考を鍛えられることや、また学ぶAキャリア教育科目の1単位に読み替えができるということから参加を決めました。
地域創生メディエーターをとるため。
地域創生メディエーターを取得したいため
地域創生メディエーターを申請するにあたり、単位の読替えができると聞いたから。
比較的簡単に資格が取れると聞いたから
友達から勧めてもらったからと地域活動に興味を持ったからです。
友達に参加するから。

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

Q3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていますか？



(%)

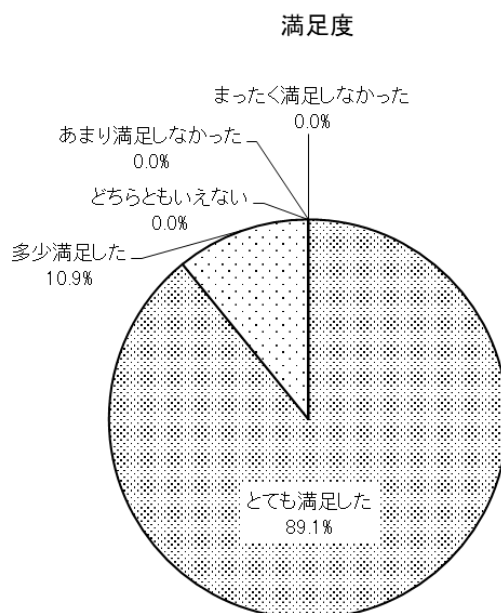
	サンプル数	かなり身についている	やや身についている	どちらともいえない	あまり身についていない	まったく身についていない	無回答
主体性	47	6.4	46.8	25.5	21.3	0.0	0.0
働きかけ力	47	2.1	29.8	44.7	23.4	0.0	0.0
実行力	47	6.4	57.4	19.1	17.0	0.0	0.0
課題発見力	47	4.3	34.0	40.4	21.3	0.0	0.0
計画力	47	2.1	36.2	25.5	36.2	0.0	0.0
創造力	47	4.3	19.1	34.0	40.4	2.1	0.0
発信力	47	0.0	19.1	36.2	36.2	8.5	0.0
傾聴力	47	2.1	46.8	36.2	12.8	2.1	0.0
柔軟性	47	8.5	38.3	31.9	21.3	0.0	0.0
状況把握力	47	8.5	48.9	36.2	6.4	0.0	0.0
規律性	47	42.6	46.8	6.4	4.3	0.0	0.0
ストレスコントロール力	47	14.9	29.8	17.0	36.2	2.1	0.0
好奇心	47	23.4	44.7	10.6	19.1	2.1	0.0
持続力	47	14.9	34.0	27.7	19.1	4.3	0.0
楽観性	47	4.3	36.2	31.9	27.7	0.0	0.0
リスクテイキング	47	10.6	34.0	10.6	36.2	8.5	0.0
自分に対する自信	47	2.1	12.8	25.5	36.2	23.4	0.0



受講後アンケート

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

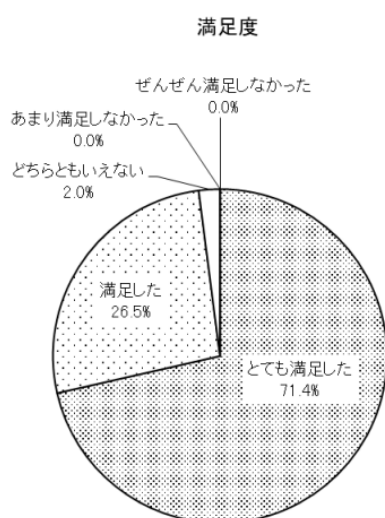
Q 1. このプログラムに満足しましたか？それはどうしてですか？



満足度		とても満足した	多少満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	まったく満足しなかった	無回答
全体	46	41	5	0	0	0	0
		89.1	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【2019年】N=49



フリーコメント

【とても満足した】

あまり関わる事のない人たちと、コミュニケーションをとることが楽しかった。普段とは、異なる状況で緊張したが、人と接する時に気を付けようと思うこと見つけたから。
いろいろな学科の人達、先輩がたと話せたし、コミュニケーションが取れたから。
いろんな学部や学年の人たちと交流だったり、一つの問題を解決することの楽しさや難しさを感じたから。
グループで楽しくできたから
グループワークしたことがなかったため、良い経験になりました。
グループワークの楽しさ
グループワークを通してコミュニケーションを学べたし、楽しかったから。
グループワークを通して班員と仲良くなれたから
しっかりとコミュニケーションをとって活動することができたから。
まだ話したことのない同級生や先輩方と話せるいい機会だなと思ったから。
遠隔授業でなかなか友達や生徒と交流ができないなか、こうやってグループワークをしてとても楽しかったです。
学科や学年が違う人と話す機会は滅多にないし、楽しかった
学年の違う人や初対面の人と話す機会は大学生活において経験することがないので良い勉強になりました。
学年を超えて、いろんな意見を交換したり、話し合いの大切さや、大変さを学ぶことができたから。
学部、学科の枠を超えてコミュニケーションをとることの難しさ、楽しさや、初めて顔を合わせる人との不安さなどがありましたが、仕切ってくださる方がいらっしゃったので、とてもスムーズに楽しくでき、不安もなくなったからです。
最初のインタビュー形式の自己紹介がとても良く、そこからみんなと仲良くなれたと感じられた自分に足りていない部分に気づくことが出来たから。
自分の思ってた以上に楽しく受けることができたから。
自分の社交性やリーダーシップ能力を知ることができた
実に楽しく身になるグループ活動でした
初対面の人とも自己紹介を通して話すことができ、コミュニケーション能力をあげることができたと感じた、
初対面の方と楽しくコミュニケーションをとることができ、色々な問題を解決することができました。自分のコミュニケーション能力の向上や意見の発言をしっかりとすることができたのでとても満足しました。
色々な方と関わることができ、とても新鮮でした。
色々な方とコミュニケーションが取れたから

『PBLゼミ 2020』アンケート集計



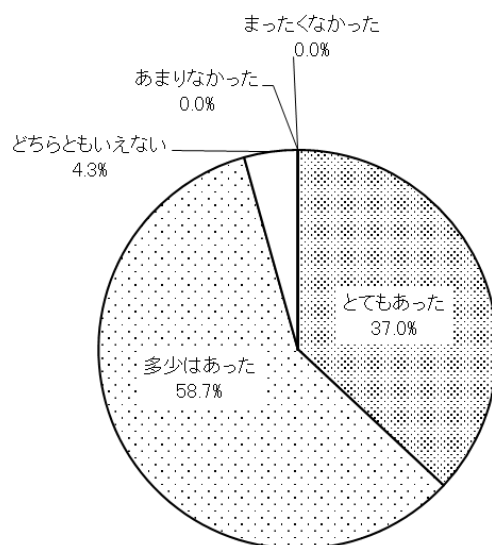
先輩方とコミュニケーションをとれたのが一番の収穫かなと思いました。最初はどんな講座かも分からず、先輩と一緒に聞いて人見知りをしてしまし、一日目はとても緊張していましたが、先輩方が話を振ってくれたり何気ない会話で和ませてくれたおかげだと思います。プログラムもしっかりと話し合えないと正解できないものだったので、自分からも話しに行きました。
他の学科に友達ができ、人見知りが改善できたと思うから。
他学科との交流ができて楽しかったから
他学科の知らない人と関わることができ、とても楽しかった。
他学科の方と普段はできないような話し合いができ、とても楽しかったため。
他学年、他学科の人達と意見の交換やコミュニケーションを日々にとることができて新鮮でとてもいい経験になったから。
他学年との交流が活発にできたから。
他学年の人と話す機会が大学生になってなかったから。
他学部の人とのコミュニケーションをとる事ができて、色々な考えについて知ることが出来た。
他学部の人や全く知らない人と関わることができてとてもいい経験になったから。また、初めてのことに沢山取り組んで少しでも自己のレベルアップを達成できたなど感じる事ができたから。
知らない人しかいないところで不安が多くあったけど、打ち解けやすいプログラムを用意してくださったので、思ったよりはやくメンバーの中で打ち解けられたのではないかと思います。
知らない人とのコミュニケーションの取り方を知れるいい機会になったため
知らない人との距離の縮め方やコミュニケーションの取り方を改めて学ぶことができたから
知らない方とお話しする貴重な体験ができた。
普段関わることのない先輩方と意見交換をした事ができて新鮮であったからです。
目的であったことを吸収できたため

【多少満足した】

グループワークを通じて自分の立場や役割を改めて学ぶことができたから
たくさんの方とかかわれたから
楽しくできた
初対面の人で最初はとても緊張しましたが、最後には協力でき問題解決できたからです。
多少満足したから

Q2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？
それはどのような点ですか？

自分自身への新たな発見

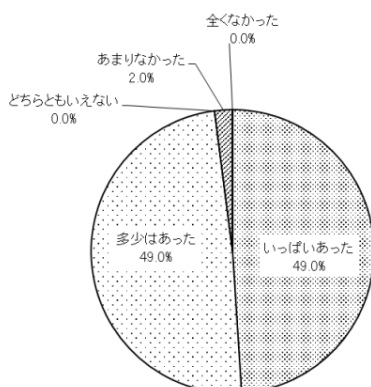


自分自身への新たな発見		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	46	17	27	2	0	0	0
		37.0	58.7	4.3	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【2019年】N=49

自分自身への新たな発見



『PBLゼミ 2020』アンケート集計



フリーコメント

【とてもあった】

うなずきの大切さ
グループの中の進行とかあまり経験がなく、自分にはないことだと思っていましたが今回仕切る場面が出てきてもっとこうすれば良かったと感じることが出来ました。これから考えるとリーダーシップを取ることに興味をわいてきたのかなと思いました。
グループワークにおいて大切なことなどがわかった
チームになったときの自分の強みや特徴
リーダーシップをとる人ではなく、補佐、副キャプテン的な役割が妥当な点
今回のゼミを受講して聞き手は話し手がしゃべりやすい環境を作ることが大切なことを学びました。
仕切る人が適正人数いることに気づきましたが、私は、みんなの意見を取り入れようとしてしまい、結果まとまらなくなってしまうことが多いと感じました。そこで、出た意見の付け足しなどの発想が今回はとても発揮できたと思うので、発想が生きる役職につこうと思いました。
私は、自分から発言するタイプではないため、もっと発言した方が良かったと思いました。
自分は積極的に話すことが得意だと思っていたけど、オンラインで初めて会った人とグループワークをしようと思うと、あまり率先して話したり、仕切ったりするにはまだ力が足りていないと感じた。
自分を知ってもらえることで会話がスムーズになり、打ち解けることを知ることが出来ました。
自分自身、盛り上げ役はできるために雰囲気作りはできたのですが、仕切り役はできないために自分ができることをはっきりと自覚できた。
自分自身がどのような性格なのか他の人がどんな人か客観的に見ることができた。
人と話すのは楽しいという点
人の話をしっかり聞くことや、情報共有の大切さを知れた。
全体を引っ張っていけるような力があまりないこと。
相手の感情まで読みとった書き方が大切であること、また積極的な発言を行うことが大切であること。
年上の方に意見を言うのは気が引けてうまく伝えられない

【多少はあった】

コミュニケーション能力が低いと思っていたが、思ったより低くないと感じた点。
以外と初対面の人とも会話をすることができた
会話の最初をなかなか始められなかったこと
今まで人との関わりをめんどうくさがってたけれど話すと意外に楽しいことがわかった

最後の野球のやつが、自分の得意分野が野球というのもあり、グループのみんなを引っ張っていくことができ、自分にもそういう力があるんだなと感ずることができたから。
自分がどのような人間なのかを知る機会が今までなくて新鮮だったし、交流の場で自分のコミュニケーション力がわかった点もある
自分から意見を言えるようになった
自分では気づけなかったことをたくさん教えてもらえた。
自分にはない他人の考え方の重要性
自分の意見をひたすら出すのではなく、ほかの人の意見もしっかり聞くという点。
自分の性格の特徴や気をつけたほうが良い子とが分かった。
自分は話を振ってもらえれば意外と話せる。
自分自身の性格を思っていた以上に理解できていたと気づくことができた点。
初対面の人とでも、話すことができる点。 自分の意見を話すことができる点。
色々です
人とコミュニケーションをとるときは、顔つきや相槌があると嬉しいなと感じた。人と情報を共有することで、新たな発見や考えに触れられると思った。
人との会話の仕方や相手の気持ちを考えるという点で、自分と価値観が違う人は身近に多いというのを再確認出来たから
人と話すことがあまり得意ではないが、やれば出来るという点。
人見知りや激しいと感じていたけれど、初めて会う人とも意外と話せたこと
積極的に明るめに話すことの大切さ、役割を身をもって感じる事が出来た
他人任せな部分が目立ったのでそこを変えようと思えるきっかけになった。
聴く姿勢を大切にできた点、後半はいつもよりも積極的に話すことが出来た点
同じ選択肢を選んでいても、選んだ理由が同じではないことが分かった点。
普段は自分の興味があること以外は、本当に興味を示さないで、相手の話をしっかり聞いて、じぶんから相手のことを知ろうとしたこと。
雰囲気作りや周りを引っ張るリーダーシップ
話を急に振られても答えられる点

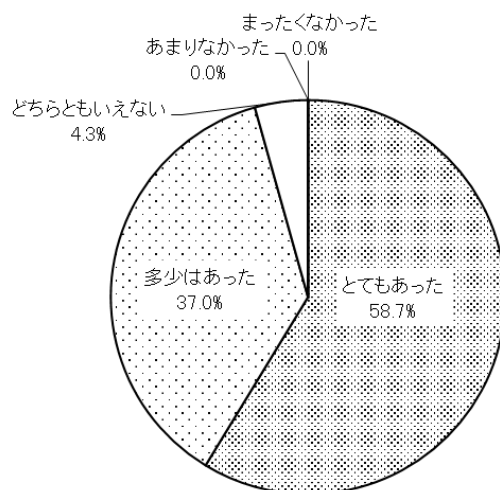
【どちらともいえない】

もっとこうなりたいなという発見はできました。
特にいつもと変わりがないと感じた。

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

Q3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？
それはどのような点ですか？

他者理解に変化はあったか

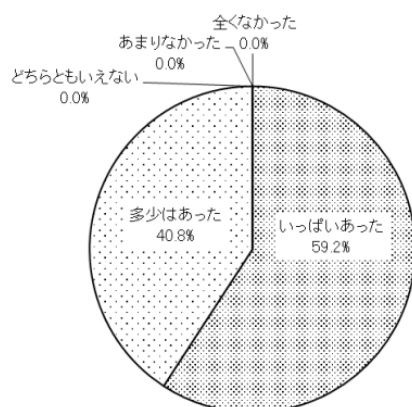


他者理解に変化		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	46	27	17	2	0	0	0
		58.7	37.0	4.3	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【2019年】N=49

他者理解に変化はあったか



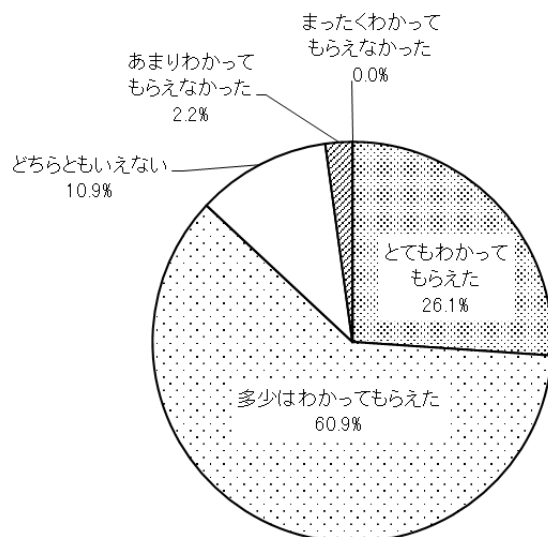
フリーコメント

【とてもあった】

「聴く姿勢」を大切に、うなづきながら、相手の表情をみながら相手の話を聞くことが出来た点
2日目に行ったコンセンサスという取り組みで、相手がなにを考えて選んだのかということをもっと感じました。
オンラインのためなかなか表情や話し方が明確にわかったわけではないが、それぞれデキルコトをやっていたり、その人の考えていることを読み取ろうとする自分がいた。
グループワークでは、相手の長所をよく知ることが大切だと感じました。
グループワークで相手のことをひきだす質問などがとてもいい経験になった
コミュニケーションについてとかの四つの設問に対しての話し合いで人の考えをより知れたし、相手を納得させることもできた
しっかりと相手のことを知らないと活動することは難しいし円滑にコミュニケーションをとることはできないと思ったこと。
しっかりと聞くこと
今まで以上に注意深く聞いたり、気になったことをメモして質問することができた点。
自分から率先して話をふろうと思った。
自分の興味がないことや、知らない情報についても知ることができ、新しい自分の趣味などに繋がられると思ったこと
色々な性格の人がいてたくさんの考え方や良いところを学べたから。
人それぞれいろいろな考えを持っており、それを体験することができたから
相手が話していることがすべてではないということ
相手のことに興味を持ったこと。相手の話をしっかりと聞いて、自分から積極的に質問をしたこと。
相手のことをうまく聞き出すことが苦手でどうやって会話を広げていけば良いのかわかってない状態でしたが一人ずつ質問していくことで、だんだんその人の特徴が見えてきて楽しくなってきました。
相手のことをもっと知りたいと思った。
相手のことを知ることで会話を広げることができることを、知ることができました。
相手のことを知ると、質問しやすかったり、コミュニケーションがとりやすかったから。
相手のことを知るには、相手からの情報をただ聞くだけではなくて、その話の背景を考えたり、その人の事を知ろうという姿勢を持って、話を掘り下げたり、そういったことも大切であると気づけた。
相手の趣味などに共感出来たり、知らなかった事を知れると会話が楽しかった。
相手を知ることでより詳しく話をする事ができるから
他人に興味を持ち、関わるのが楽しいと感じることができた。

Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？それはどのような点ですか？

自分のことをわかってもらえたか

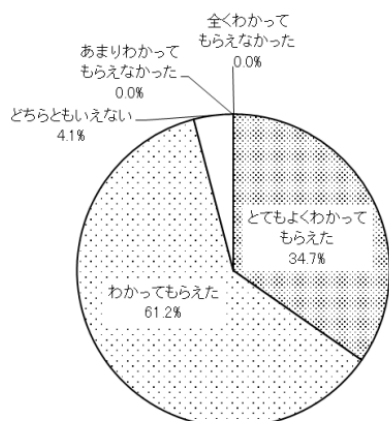


自分のことをわかってもらえたか		とてもわかってもらえた	多少はわかってもらえた	どちらともいえない	あまりわかってもらえなかった	まったくわかってもらえなかった	無回答
全体	46	12	28	5	1	0	0
		26.1	60.9	10.9	2.2	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【2019年】N=49

自分のことをわかってもらえたか



『PBLゼミ 2020』アンケート集計

フリーコメント

【とてもわかってもらえた】

いろんなお話ができて楽しかった
感想や分かち合いの際にこんなことがよかった、個々次頑張ろうなど自分と同じようなことをみんなが考えていた。また自分らしさを出していたつもりであるため知ってくれたと感じた。
共通な点があり、自分のことを知ってもらえました。
興味を持ってもらえた
元気が良く楽しそうにコミュニケーションを図る
自己紹介であったりほかの活動において理解してもらえたと感じた。
自己紹介に時にしっかりと紹介できたと思うから。
自分らしさをしっかりと出して、自分のことを好きに少なからずなってくれたと思います。
自分を積極的にだせたから
質問形式の自己紹介で質問者が気になることを質問してくれたため。
趣味や自分がどんな性格であるかの点。
相手の話を積極的に聞く点

【多少はわかってもらえた】

グループに同じ学科の子がいてその子に学科についてや授業についての質問をされた点。
たくさん色々な方とコミュニケーション取れて深められたとおもったから。
どのような点かは詳しくは分らないが、情報共有する中で自分がどのような人間であるか多少は知ってもらえたと思うから
記者会見という形で、その人なりの人柄やバックグラウンドを理解できた
記者会見をした点
最初の質問タイムの時に、自分が好きなことから話を広げてくれたり、話し合いの時も自分の伝えたことをしっかりと覚えてくれていたりした。
昨日よりも今日の方が楽しく積極的に話せたし、お互いのことについて色々質問し合えたから
仕切るタイプではないということ。
追加情報をきちんと話の中で言えること。
自己紹介でいろいろな質問をされた時に、一言だけではなく理由やあらましなどをきちんと伝えることが出来た
自己紹介で話すことができた
自己紹介のときに聞かれたことだけでなく、もう少し話を広げることをしたかったと感じた点。
自分がどこの学科で高校は何をしていたのかなど
自分がどのような人なのかざっくりではあるが知ってもらえた。
自分からは話せないけど、話を振ってもらえれば答えられること
自分が好きな映画や趣味に共感してもらえたから。
自分が話をきちんと聞くことができると言ってくれました。

自分の意見に対して、うなずくなど反応してもらえた点。
自分の意見をはっきり伝えることができたから。
自分の性格の特徴や好きなこと、苦手なことなど。
初回の日での記者会見での質問で6分間話が途切れなかったためある程度は知ってもらえたと思っている。
書いた情報以外にも質問をしてもらえた点。話し合いでの自分の意見を言えた点。
積極的に話すことはできなかつたかも知れないが少しは知ってもらえたと思う。
普段よりは積極的に話すことが出来た。「記者会見」のプログラムでは質問からさらに話を広げることができた。
聞かないとわからない
明るく積極的に発言するところ。
話し下手
話の中で、結構直感で行くタイプなんだね、と言ってもらった。少しの時間しか関わっていないけど、自分の性格を理解してもらえたのかなと思う。

【どちらともいえない】

ZOOM だけでは理解しきれない部分があるから。
あまり自分のことについて語ることはなかったので、その分わかってもらえたかは不安が残るから。
こんな人だよ！とは言われていないからハッキリとはしないが、どんなキャラクターなのか、どんなことが好きかなどは知ってもらえたのではないかなと思う
意見を積極的に言えなかつたこと

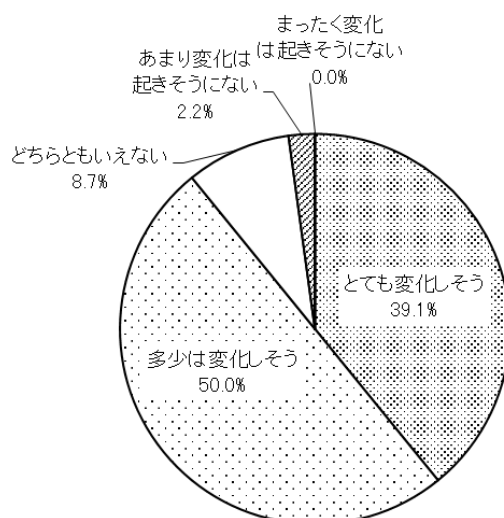
【あまりわかってもらえなかつた】

自分からは発言することができなかつたため、今後グループワークをする機会があったら、自分のことが分かってもらえるように自分から発言したいです。
--

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

Q5. このプログラムを受け、普段の授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？どんな変化ですか？

授業への取り組み姿勢に変化がおきそうか

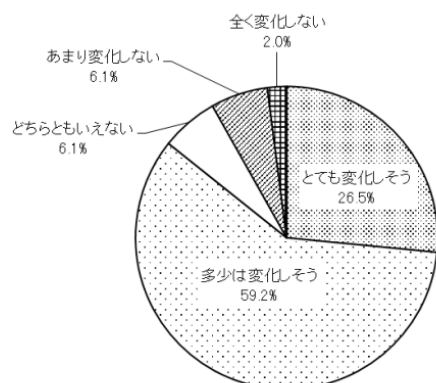



授業への取り組み姿勢に変化がおきそう		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	46	18	23	4	1	0	0
		39.1	50.0	8.7	2.2	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【2019年】N=49

授業への取り組み姿勢に変化がおきそうか




フリーコメント
【とても変化しそう】

コミュニケーションを取らなければいけない場面において自分からグループを引っ張っていきけるようにしたいと感じた。
これから初めて会う人とグループワークする時になるべく自分から積極的に話そうと思った
これから初対面の人と話す機会があった時、確実に今日のことを思い出すと思う
もっと自分をアピールしようと思った
リーダーシップをとってまとめようとする力です. 今まではリーダーシップを取ることが嫌で仕方なかったけど今回を通して前向きに捉えられるようになった.
行動力
講義内の先生の解説に対しての聞き方について、先生の言ったことと自分の意見を比べながら聞こうとすること。
自分からコミュニケーションを取ろうと思えた。
自分から積極的に仲間と協力して課題を解決していこうと思えた
自分に足りない能力や、自分が持っている長所を知ることができた。そのため心の中で自分はずっとやれると言う変化が起きてくると思う。
受け身な態度でいるのではなくて、自分から積極的に聞こうとすることが大切であると改めて感じた。授業でも同じことが言えると思うので、学びたいという姿勢を意識して行きたいと思った。
授業では、分からないことがあったら自分で解決してしまうことがあるため、先生に聞いたりしてみたいなと感じました。
授業でも色々自分から意見を言おうと思った。
人との交流が大切ということが分かった
人の意見を聞くだけでなく、自分の意見も口に出して言うこと。
正直、意見を言うのは苦手で聞く側が多かったけれど、意見の伝え方や意見の聞き方が改めてとても大事で、理解することが大変ということが分かったので今後もグループワークとかもあると思うのでそこで2日間で分かったことを発揮出来たらいいなと思ったから。
率先して司会をするタイプではないのですが自分にできる役割を探して積極的に話し合いに参加したいと思うようになりました。
話を聞くだけでは無く相手の事を深く考えて行こうと思う。

【多少は変化しそう】

ZOOMの授業が多いけれど対面の授業と同様に頑張りたいと思いました。また、地域共生実践の科目をとるのでグループワークに積極的に行いたいと思いました。
あまり意見を言うのが得意ではないので、自分の意見をしっかりいうことと、盛り上げ役や進行役は私には難しいが少しでもできるようになりたいと思いました。
グループワークが楽しかったので、グループワークの授業なら積極的に参加できそうです。
グループワークでは、率先して話そうと思った

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

グループワークなどでは大きく発揮することができると思います。
グループワークなどで人の意見を尊重しながら自分の意見も伝えようと思いました。
しっかり話を聞きたいと思いました。
ただ授業を聞くだけでなく、言動の相手の意図を読み取ることなどを意識してみたい。
講義中に先生に対して自分が理解しているかを表情やうなづきなどでアピールできるといいと思う。
今までよりも相槌などの反応をできるようになると思う
今後のグループ活動において自分がどう振舞うのかをこの経験をもとに対応する。
自分1人で解決するのではなくいろんな人の意見を参考にしていきたいと思った。
自分から積極的に考えて、授業に参加していきたいと思う。
人の話をしっかりと聞くという事。
積極的にわからないことは聞こうと思う
積極的に動くこと
先生の伝えたいことをしっかり見抜いて、話をしっかりと聞く。
先輩のリーダーシップをみていいなと思ったので自分もってしていきたい
特に zoom 上だと、反応してくれることが本当に助かることがあるため、うなづくなどの反応を行なっていきたいと思った。
問題に悩んだ時、違う方向から考えようとする姿勢ができるように変えていく。
話し合いでは、しっかりと相手のことを理解しようという姿勢が大切だと思った。
話をしっかりと聞くことの意識

【どちらともいえない】

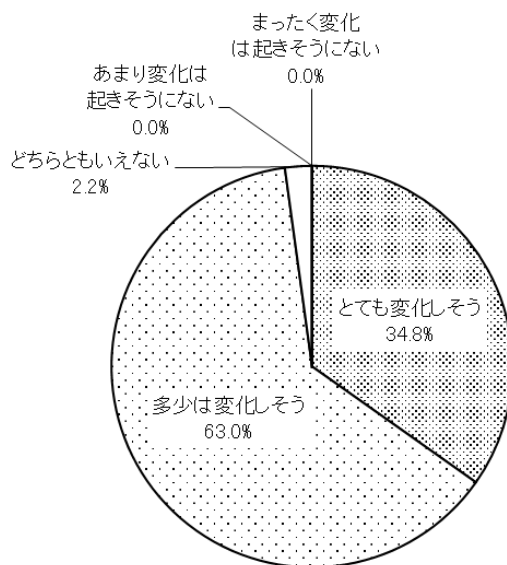
あまり変わらないと思います。
授業に関係があるかはまた別の話であると思うから
変化なし

【あまり変化は起きそうにない】

これからも講師の先生の話をしっかり聞いていきたいと思った。

Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？
どんな変化ですか？

今後の学生生活に変化がおきそうか

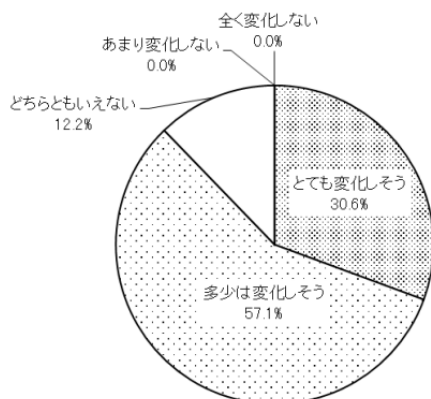


今後の学生生活に変化がおきそう		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	46	16	29	1	0	0	0
		34.8	63.0	2.2	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【2019年】N=49

今後の学生生活に変化がおきそうか



「PBLゼミ 2020」アンケート集計

フリーコメント

【とても変化しそう】

Q5 と似たようなことだが自分からグループを引っ張っていけるような力をつけたいしそういう場面で自分から引っ張っていけるようになりたいと思う。
講義などでわからないことがあったとき積極的に聞きに行こうと思う。さらに友人どうしても意見交換をしようと思う。また、講義内で積極的に発言したい。
今回自分に足りていない部分に気づけたので、そこを改善できるように、意識して生活していきたいと思った。
自分の特徴を活かしてみんなと同じ方向を向いていこうと思えた
初めて顔を合わせる人でも、楽しく話しかけたり、困っている人を見つけたら声をかけようと思いました。
積極的に楽しくコミュニケーションを取ろうと思った。
相手に伝える難しさを学ぶことができたのでこれからは相手にわかりやすく伝えることを意識して話していき今後につなげたいと思う気持ちの変化。
相手の話を聞くときにただ聞くだけでなくなぜそうなったのかなど、理由も聞こうと思った
相手を知ることや、自分も知ってもらうことでコミュニケーションはとりやすくなるので、自分を知ってもらうことと、相手を知ろうとする努力を行えると思う。
他学年の人や初めましての人と交流するときに相手をひきだすことの勉強ができた。
他学部の先輩ができたし、コミュニケーションを行う上で、大切なことは何であるかということが学べたし、自分自身のことも今までよりも知れたと思うので、今後大学生活では、話し合いなどで、この経験が役に立つだろうなと思いました。
他人でもフレンドリーに接して自分のことを知ってもらうことによりさまざまな人脈や楽しい会話ができると思いました。
他人に対する考え方や、自分に対する考え方に変化がおき、より良い学生生活が過ごせるかがする。
多くのひとと交流して多くの事を吸収出来たのでその分やりたいことが見付きそうだから、友達関係の新構築などができると思う。話の雰囲気からやりとりなどで、居心地がいいと思わすことが出来たら新しい友達もできると思います。
話し方

【多少は変化しそう】

いろいろ参加してみるのはいいと感じた
いろんな人に積極的に話に行くことができると思う
いろんな人の話を聞きたいと思った。
グループで関わったメンバーと会話ができる可能性ができたこと。
グループワークなど楽しく受けられそうです。
グループワークの授業に積極的に参加したいと思いました。

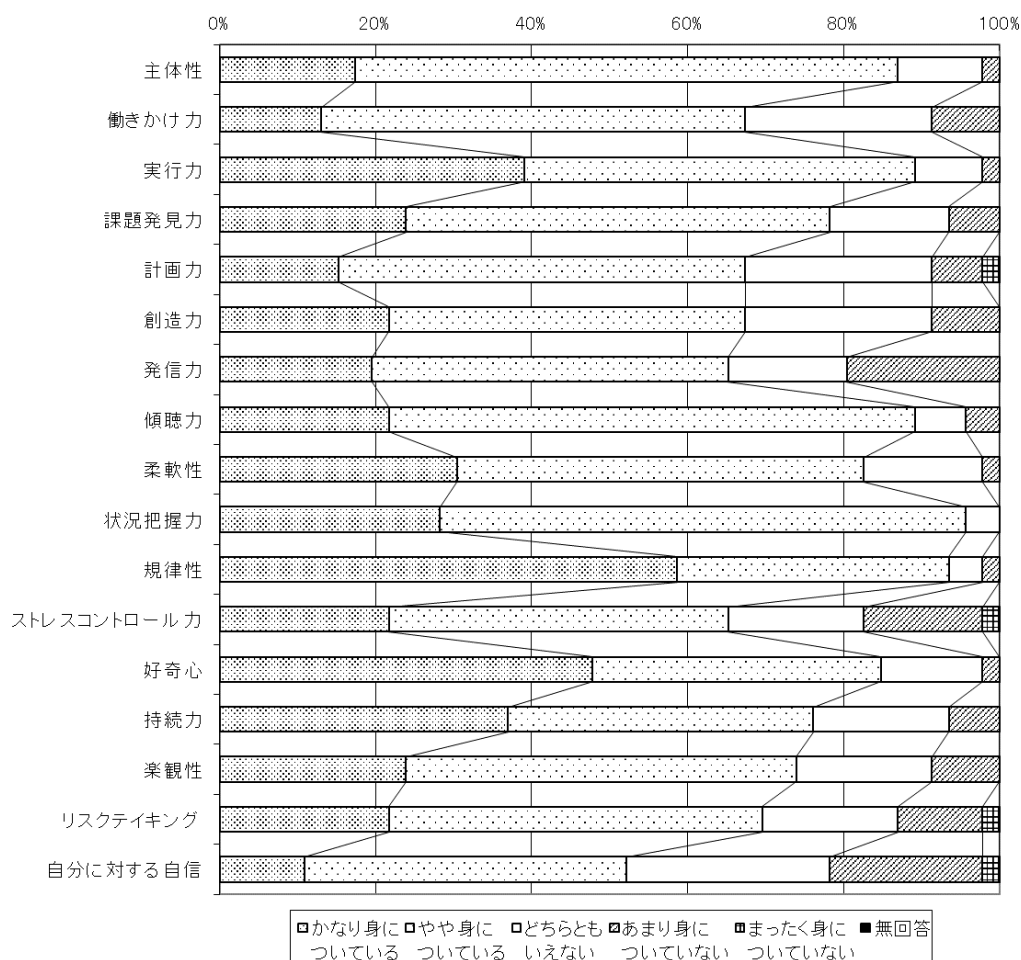
コミュニケーションは難しく、得手不得手があると思う。その中でも自分なりのコミュニケーションを失敗を恐れず取っていきたいと感じた。
何かに分かちからチャレンジしてみようと思った
今回出会った方々と繋がりができ、人脈が広がったと思う。
自分に自信が持てた
自分の意見を大切にしつつ、他人の意見も尊重しようとする意識がめばえた。
初対面でも話すことができると思う
初対面の人と出会う場などで以前よりは積極性をもてたらいいと思う。また、就職活動における面接にも役立てたい。
人との関わり方やグループ活動での進め方を効率よく充実させてできそうである
人の言うことをきちんと聞く
人見知り+他人にあまり興味を示さないことが多かったのですが、これからコミュニケーションをしっかりと取って行きたいと思いました。
積極的にグループ活動の中心やまとめ役になれるようになりたいと思えたこと。
先輩とのつながりができたので学園生活を充実させることが出来そう。
先輩に会ったら挨拶をしたい。
相手の考えや意見を最後まで聞き、自分の考えや意見も分かりやすい言葉で伝えようと思った。
相手の話をしっかりと聞く能力を意識して身につけて行きたいと感じた
他にも他学科友達を作ろうとおもった。
普段あまり関りが無い人の考えを理解しようとする変化。
物事に対する積極的な取り組み
友人とコミュニケーションを交わす際に相手に考えが伝わるように意識してみたり、相手の発言を注意深く聞いてあげたりしたい
友達ができ、後輩ができました。
友達の相談を聞いている時などに違う方向からも意見が出るように変えていく。
様々な人とも意見が取り合えそうだという変化。

【どちらともいえない】

変化なし

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

Q7. このプログラムを通じて、受講前と比べどのような力や姿勢が身についたと思いますか？



(%)

	サンプル数	かなり身についている	やや身についている	どちらともいえない	あまり身についていない	まったく身についていない	無回答
主体性	46	17.4	69.6	10.9	2.2	0.0	0.0
働きかけ力	46	13.0	54.3	23.9	8.7	0.0	0.0
実行力	46	39.1	50.0	8.7	2.2	0.0	0.0
課題発見力	46	23.9	54.3	15.2	6.5	0.0	0.0
計画力	46	15.2	52.2	23.9	6.5	2.2	0.0
創造力	46	21.7	45.7	23.9	8.7	0.0	0.0
発信力	46	19.6	45.7	15.2	19.6	0.0	0.0
傾聴力	46	21.7	67.4	6.5	4.3	0.0	0.0
柔軟性	46	30.4	52.2	15.2	2.2	0.0	0.0
状況把握力	46	28.3	67.4	4.3	0.0	0.0	0.0
規律性	46	58.7	34.8	4.3	2.2	0.0	0.0
ストレスコントロール力	46	21.7	43.5	17.4	15.2	2.2	0.0
好奇心	46	47.8	37.0	13.0	2.2	0.0	0.0
持続力	46	37.0	39.1	17.4	6.5	0.0	0.0
楽観性	46	23.9	50.0	17.4	8.7	0.0	0.0
リスクテイキング	46	21.7	47.8	17.4	10.9	2.2	0.0
自分に対する自信	46	10.9	41.3	26.1	19.6	2.2	0.0

Q 8. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

フリーコメント（Q 1 の満足度別）

【とても満足した】

<p>いってらっしゃいなど声かけてくださりとても印象が良かった</p>
<p>グループワークに移動するときなどに手を振ってくれる姿が印象的でした。とても親しみやすかったです。</p>
<p>グループワークをしているとき、一緒に頷いて聞いてくださったため、とても嬉しかったです。</p>
<p>グループ活動に行く前に「いってらっしゃい」と一声かけてくれたことで、初めてのグループ活動の時に緊張がほぐれました。</p>
<p>説明も端的でわかりやすく、1回で理解する事ができました。</p>
<p>いってらっしゃい、おかえりなさいの言葉でアットホーム感が生まれ、やりやすい状況でした。</p>
<p>しっかりと進めていただき、とても楽しかったです。ありがとうございました。</p>
<p>すごく楽しく講義を受けることができたので、この講師の先生はとてもいいひとなんだなと思った。</p>
<p>とてもいい授業だった。接続が悪くなくて時々聞き取れない時があったが、これからオンラインを利用することも多いと思うので自分のためになったと思う。</p>
<p>とてもわかりやすく説明して下さってありがとうございました。今回初めて取り組むことが多かったけれどとても楽しみながら取り組むことができました。特に、グループ課題が楽しかったです。</p>
<p>とても解説がわかりやすく細かく説明していただけたため、実習がやりやすかった。また気さくな方で気軽に話しかけることができた。</p>
<p>とても楽しい講義でした。ありがとうございました。</p>
<p>とても楽しくコミュニケーションがとれるプログラムでした。</p>
<p>とても楽しくてあっという間でした！ありがとうございました</p>
<p>とても気さくな方で、講義もとても楽しかったです。</p>
<p>とても親切で楽しい授業でした。</p>
<p>とても丁寧かつ親切で講義が受けやすかった。</p>
<p>とても分かりやすく、楽しいプログラムを準備していただけて嬉しい。</p>
<p>とても話しやすかったです。</p>
<p>ゆっくりと分かりやすいご説明を頂けました。とても理解しやすかったです。</p>
<p>わかりやすい説明、ありがとうございました。</p>
<p>遠隔で大変な中スムーズに進行していただき、とても助かりました。</p>
<p>何も言わずにグループに入ってでていくのはやめて欲しかった。何か意見を言うか、質問をして欲しい</p>
<p>解説などもわかりやすくとてもよかったですと感じました。</p>

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

皆さんハキハキされていて、講義の内容も興味深く、とても好印象だった。
言葉口が柔らかくて聞きやすい声だった
自分たちが学ばせてもらう側であるのに、とても腰が低くて、凄く丁寧に話をしてくださる感じがして良いなと感じました。
進行がとても上手で話もすぐわかりやすかったです。人の話を長時間聞いているのが苦手なのですが、飽きずに、興味を持って聞くことができました。
先生方、生徒たち共にいい人が集まってこの素晴らしい授業に参加できたこと心から感謝しています。自分の中でも人生の見方を変えてくれる授業でした。この経験を生かし、社会に貢献できる器の広い人間になりたいです。
先生方はみんなポジティブでいい意見をたくさん聞けたと思う。
素早く対応してくださったのでとても楽しく授業を受けることができました。ありがとうございました。
特にありません
不具合で退出してしまったときに親切に対応してくれたのでとても感謝しております。
物腰が低くとても接しやすい印象を受けた
分かりやすく円滑に講義を進めていたので良かったです。
聞き取りやすく、理解しやすかったです。
明るい雰囲気を作ってくれてグループワークをする時も堅くなりすぎずに出来た。
明るくて話をしやすい
優しくわかりやすく話してくれたり何か問題があると解決をしてくださったりして、対応してただけで良かったです。
話し方と返し方がとても丁寧

【多少満足した】

テキパキしていてスムーズで良かったです。
とても良かったです
関西の方なのかなと思った
講師については固い方が多い偏見を持っていたが、フランクな方ばかりでいい意味で緊張感なく過ごすことができた。
優しくて丁寧で時間が足りなかったが対応してもらえてありがたかったです。

Q9. この授業について感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

フリーコメント（Q1の満足度別）

【とても満足した】

1日目で16個の質問のパワポを送るスピードが少し早く感じた。

受けてよかったと思える授業でした、2日間ありがとうございました。

zoomでの開講だったので、不安もありましたが、スムーズかつ楽しく受講することができて良かったです。

ZOOMでやるのも新鮮さがあって楽しかったが対面でも実施してみたいと思った。

いろいろな人と関わって面白かったです。自分に足りない部分が知れた。

オンラインであることもあって最初は話しにくいこともあったが、次第に打ち解けることができとても楽しい2日間の授業でした。オンラインでは難しい点もありますがしっかりとコミュニケーションを取ることができたと思います。

グループで協力して課題解決に取り組むことが緊張もあったが、とても楽しく充実した時間を過ごせたと思います。

グループワークをする時はするときで一気にやることを言って欲しい1回1回全員の画面に戻るとやりづらい。

グループワークを行ったことがなかったし、Zoomでカメラを使うことがなかったため、とても新鮮でした。

グループ活動にはリーダーシップをとれるような人がいるおかげでまわることを改めてわかった。私はリーダーシップをとることが苦手だったので今回、リーダーシップをとってくれた人がどうやって話を切り出したりまとめたりしているかを間近で見れて実際自分もできるようにしたいと感じることが出来た。

相手への意見の伝え方や相手の意見に耳を傾けることは簡単だと思っていたけれど、思っているより伝わらなかつたり、理解できなかつたりしたため試行錯誤しながらする事で伝わった時や理解出来た時に達成感が生まれ嬉しくなった。

コミュニケーションや意見交換は積極的にすることで、自分の力になると感じた。

ゲーム形式だったので楽しく、皆とコミュニケーションがとれました。自分は人見知りなのですが、3時間の2日で仲良くなれたので、内容がよかったと思います。

こういったグループワークをするには、やはり話の進行役であったり、タイムキーパーであったり、そういった役割が話し合いをするのにとっても大切であると思った。しかしそれは初めに強制的に決めなくても、自然と作られたりもするのだな、と感じた。

コロナの影響でzoomになってしまいましたが、とても楽しめました。ありがとうございました。

チームワークの大切さを知ることができました。ありがとうございました。

とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

『PBLゼミ 2020』アンケート集計

なかなか3年になると初対面の人と話す機会がないのですが、この授業を受けて初対面だったりグループでのコミュニケーション能力などの向上を行えたのでよかったです。

パソコンだと接続が悪くなったり、資料が開けなかったりするから、対面でもよかったのではないかと思います。

とても楽しかったです。ありがとうございました。

また機会があればこのようなものに参加したいです。

みんなで話すことの大切さを知った。

一年生にしてこの授業を受けてよかった。他の一年生よりも先に進めた気がする。とても充実した二日間でした。ありがとうございました。

楽しい講義だったため、言うことはありません。ありがとうございました。

緊張しましたが楽しかったです。ありがとうございました。

最初はいやだなあ、長いなあとおもっていたけど終わってみたら楽しかった

最初は何をするのか、初対面の人と話せるのか不安だったけれど、グループの人たちが親しみやすくて、楽しかったです。ありがとうございました。

思っていたよりも意見を言うことができたということに気づきました。

思ってたより、とても楽しく満足できました、

自主的に考えたりしたことを、人に伝える難しさを感じました。しかし、伝わっていると分かった時の嬉しさも知りました。

初めての人達で緊張していたが、楽しくかつコミュニケーションの取り方を学べてよかったと思う。

初めは、オンライン授業で不安もありましたが、グループワークでは先輩方が気さくな方ばかりで、自分の意見がしっかり言えて、とても楽しかったし、コミュニケーションをとる姿勢がわかりました。

初対面の人とのコミュニケーションは難しいなと感じましたがその反面、お互いのことを知ることの楽しさも知ることができました。

人と関わる人が苦手な人は参加するべにだと思う。話す聞く力がつくと感じた。また、他学科の人と関わる絶好の機会だと思う。

人見知りの自分でもオンラインなら少しは発言しやすかったりすることに気が付きました。また、様々な学部や学年が集まる授業はなかなかないのでとてもいいなと思いました。

先生方のおかげで楽しく授業ができました。ありがとうございました。


前までは知らない人とはあまり会話が進まなかったけど、今回のPBLゼミを通して知らない人、年齢関係なく喋ることができるようになったと思いました。

他の1年生よりも一歩進むことが出来たので良かったです。

他の学科や学部の人と関われる機会がもっとあっていいと思った。

他学科の人とあまり関わる機会がなく、最初はこのゼミも嫌だなーって思っていたが、受けてみて参加してよかったと思えた。

他学年・他学部と仲良くなれて良かったです



対面ではどのようなことをしたのかが気になった

【多少満足した】

ZOOMは同時に喋ることが難しい反面、だれが積極的に喋り出すのか、リーダーシップを発揮することができるのかがより浮彫になった気がしました。対面だと気づけにくいことだと思うので、このプログラムに参加して良かったです。本当にありがとうございました。
--

コロナの影響もありますが、対面が良かったです

とてもいい時間をすごせ、自分のスキルアップになったのではないかと思います。ありがとうございました。

初のZoom岐阜ゼミにしては不手際少なかったのでは無いかと感じた

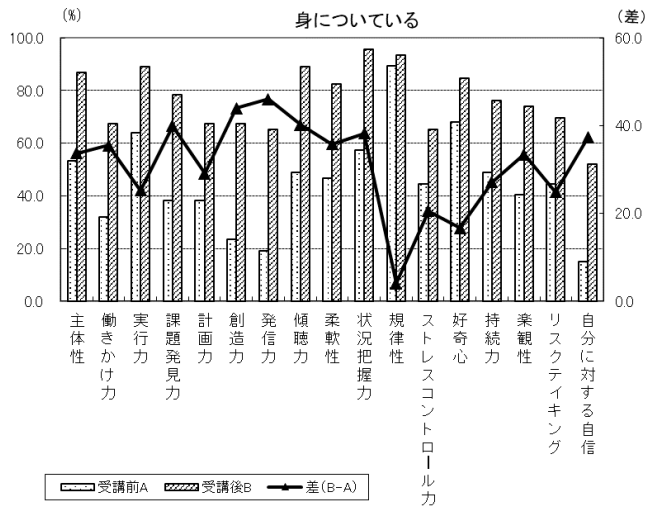
進行役の大切さを痛感しました。



受講前・受講後比較
(社会人基礎力)

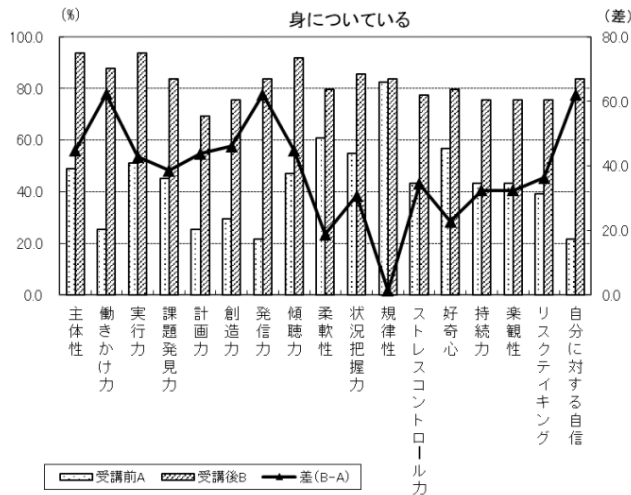
Q : それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていると思いますか？

【2020年】N=46



	身につけているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	53.2	87.0	33.8
働きかけ力	31.9	67.4	35.5
実行力	63.8	89.1	25.3
課題発見力	38.3	78.3	40.0
計画力	38.3	67.4	29.1
創造力	23.4	67.4	44.0
発信力	19.1	65.2	46.1
傾聴力	48.9	89.1	40.2
柔軟性	46.8	82.6	35.8
状況把握力	57.4	95.7	38.2
規律性	89.4	93.5	4.1
ストレスコントロール力	44.7	65.2	20.5
好奇心	68.1	84.8	16.7
持続力	48.9	76.1	27.2
楽観性	40.4	73.9	33.5
リスクテイキング	44.7	69.6	24.9
自分に対する自信	14.9	52.2	37.3

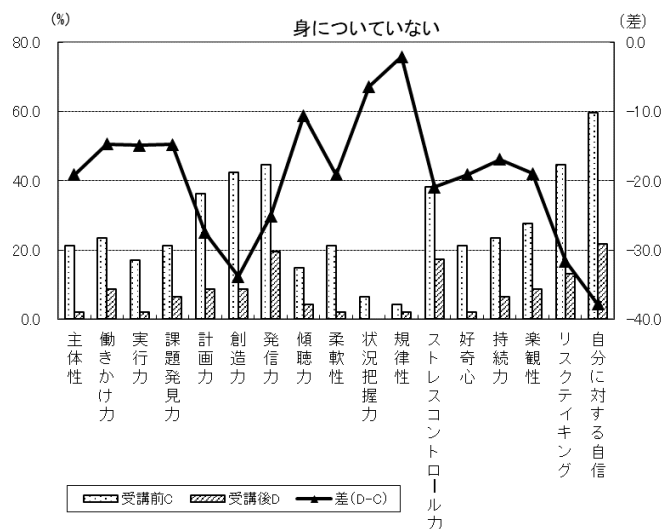
【2019年】N=49



	身につけているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	49.0	93.9	44.9
働きかけ力	25.5	87.8	62.3
実行力	51.0	93.9	42.9
課題発見力	45.1	83.7	38.6
計画力	25.5	69.4	43.9
創造力	29.4	75.5	46.1
発信力	21.6	83.7	62.1
傾聴力	47.1	91.8	44.8
柔軟性	60.8	79.6	18.8
状況把握力	54.9	85.7	30.8
規律性	82.4	83.7	1.3
ストレスコントロール力	43.1	77.6	34.4
好奇心	56.9	79.6	22.7
持続力	43.1	75.5	32.4
楽観性	43.1	75.5	32.4
リスクテイキング	39.2	75.5	36.3
自分に対する自信	21.6	83.7	62.1

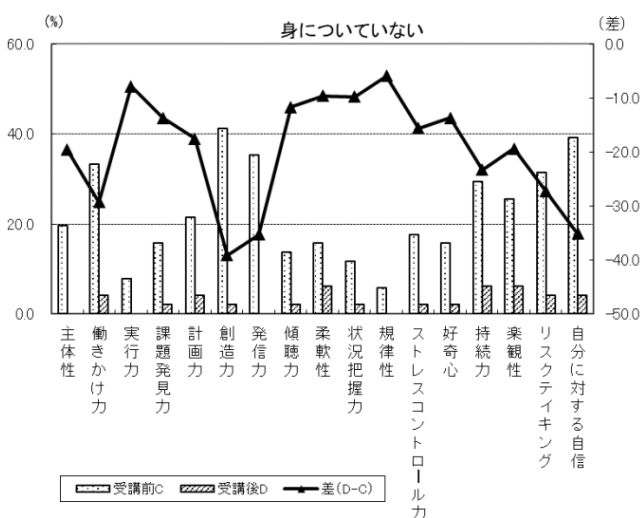
『PBLゼミ 2020』アンケート集計

【2020年】N=46



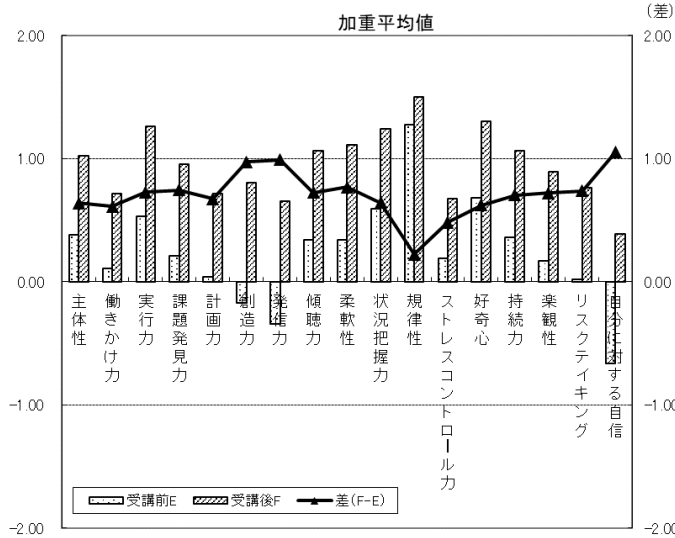
	身についていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	21.3	2.2	-19.1
働きかけ力	23.4	8.7	-14.7
実行力	17.0	2.2	-14.8
課題発見力	21.3	6.5	-14.8
計画力	36.2	8.7	-27.5
創造力	42.6	8.7	-33.9
発信力	44.7	19.6	-25.1
傾聴力	14.9	4.3	-10.5
柔軟性	21.3	2.2	-19.1
状況把握力	6.4	0.0	-6.4
規律性	4.3	2.2	-2.1
ストレスコントロール力	38.3	17.4	-20.9
好奇心	21.3	2.2	-19.1
持続力	23.4	6.5	-16.9
楽観性	27.7	8.7	-19.0
リスクテイキング	44.7	13.0	-31.6
自分に対する自信	59.6	21.7	-37.8

【2019年】N=49



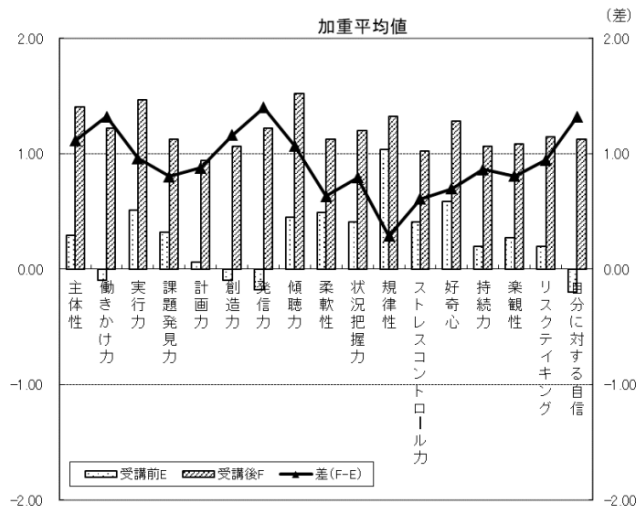
	身についていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	19.6	0.0	-19.6
働きかけ力	33.3	4.1	-29.3
実行力	7.8	0.0	-7.8
課題発見力	15.7	2.0	-13.6
計画力	21.6	4.1	-17.5
創造力	41.2	2.0	-39.1
発信力	35.3	0.0	-35.3
傾聴力	13.7	2.0	-11.7
柔軟性	15.7	6.1	-9.6
状況把握力	11.8	2.0	-9.7
規律性	5.9	0.0	-5.9
ストレスコントロール力	17.6	2.0	-15.6
好奇心	15.7	2.0	-13.6
持続力	29.4	6.1	-23.3
楽観性	25.5	6.1	-19.4
リスクテイキング	31.4	4.1	-27.3
自分に対する自信	39.2	4.1	-35.1

【2020年】N=46



	加重平均値		
	受講前E	受講後F	差(F-E)
主体性	0.38	1.02	0.64
働きかけ力	0.11	0.72	0.61
実行力	0.53	1.26	0.73
課題発見力	0.21	0.96	0.74
計画力	0.04	0.72	0.67
創造力	-0.17	0.80	0.97
発信力	-0.34	0.65	0.99
傾聴力	0.34	1.07	0.72
柔軟性	0.34	1.11	0.77
状況把握力	0.60	1.24	0.64
規律性	1.28	1.50	0.22
ストレスコントロール力	0.19	0.67	0.48
好奇心	0.68	1.30	0.62
持続力	0.36	1.07	0.70
楽観性	0.17	0.89	0.72
リスクテイキング	0.02	0.76	0.74
自分に対する自信	-0.66	0.39	1.05

【2019年】N=49



	加重平均値		
	受講前E	受講後F	差(F-E)
主体性	0.29	1.41	1.11
働きかけ力	-0.10	1.22	1.32
実行力	0.51	1.47	0.96
課題発見力	0.32	1.12	0.80
計画力	0.06	0.94	0.88
創造力	-0.10	1.06	1.16
発信力	-0.18	1.22	1.40
傾聴力	0.45	1.52	1.07
柔軟性	0.49	1.12	0.63
状況把握力	0.41	1.20	0.79
規律性	1.04	1.33	0.29
ストレスコントロール力	0.41	1.02	0.61
好奇心	0.59	1.29	0.70
持続力	0.20	1.06	0.87
楽観性	0.27	1.08	0.81
リスクテイキング	0.20	1.14	0.95
自分に対する自信	-0.20	1.12	1.32

② オータムスクール 2020 in 羽島

文部科学省
地(知)の拠点

COC+参加大学共通プログラム



地域の魅力を発見！オンラインで発信！

オータム

2020

In

羽島

スクール

2020.11.

14

土

フィールドワーク
[現地orオンライン]
9:00~17:00 (予定)

15

日

グループワーク
[オンライン]
9:00~17:00 (予定)

21

土

プレゼンテーション
[オンライン]
13:00~17:00 (予定)

※新型コロナウイルス感染症の状況によってスケジュールが変更となる可能性があります。

A

繊維産業コース

繊維産業の魅力を発信

繊維業は羽島の伝統産業ながら、最先端の科学を生かした開発も進められ、製糸から最終製品まで裾野の広い産業です。意外と身近な製品を支えている地元企業・繊維産業の魅力や特色をPRしたい。
見学先：長谷虎紡績(株) 他

B

町づくりコース

羽島の楽しみ方を発信

都心からも近い羽島市。隠れた魅力スポットは多いですが、でも観光客にPRする「ここぞ」という大きなスポットがないのです。遠くに少し行きづらいコロナ禍。近場・地元の羽島で遊ぶ満喫方法を伝えたい。
見学先：羽島市歴史民俗資料館 他



岐阜大学



中部大学



中部学院大学
大学院 / 大学 / 短期大学部



名古屋学院大学



日本福祉大学

【オータムスクールとは】

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点増加を試み、産業界ニーズにより適合した人材を育成する教育プログラムを各大学において実施しております。その一環として、大学間共通のオータムスクールを岐阜県羽島市（岐阜圏域）で開催します。このプログラムでは、地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に、地域の「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げましょう。

参加費

0円（食費・交通費等実費）

行程表

コース決定後に各自連絡いたします。

参加方法

フィールドワークは現地参加の場合、岐阜県羽島市内で実施いたします。オンラインはZOOMミーティングを用いて実施いたします。オンラインの場合は、各自通信環境や機材を準備してください。

参加人数

各コース
20名程度

申込締切

2020年
10月23日(金)
※先着順定員になり次第締め切りいたします。

【申込方法】 10月23日（金）申し込み締切 全項目にご記入ください

必要事項を記入し、中部大学 地域連携センター（キャンパスプラザ2階）まで提出してください。（事務局にも申込書あります！）または、必要事項をメール（coc@office.chubu.ac.jp）に記載し、申し込みいただいても構いません。

氏名		性別		学年	
学籍番号		学部			
携帯電話		メールアドレス			
希望コース (A,B,Cを記入)	第一希望 _____ 第二希望 _____ 第三希望 _____ A.繊維産業コース B.町づくりコース C.どちらでも可 ※申し込み人数によって必ずしも希望コースになるとは限りません。予めご了承ください。				
フィールドワーク 参加方法 (1日目)	現地参加 ・ オンライン参加 ※感染症の状況によっては、全てオンラインとなる可能性があります。 2、3日目はオンラインとなります。				
その他 (配慮事項など)					

問い合わせ先・中部大学 地域連携センター TEL：0568-51-9872 MAIL：coc@office.chubu.ac.jp

記載いただいた情報は、オータムスクール2020in羽島以外の目的には使用しません。

オータムスクール 2020in 羽島 実施報告

1. 背景

ぎふ COC+事業参加大学共通プログラムのひとつとして例年実施しているサマースクールは、合宿の中で大学・学年の枠を超えて互いに交流を深めながら、地域や地元産業の現状を知り、その課題解決に向けた提案発表を実施している。

2020年度は5回目の開催であり、対象は岐阜圏域であった。しかし COVID-19 の関係で開催方法の検討に時間を要し、「オータムスクール 2020in 羽島」として開催することになった。

2. コース概要

コース・主な見学先	テーマ等
A.繊維産業コース <ul style="list-style-type: none"> ・美濃縞体験コーナー ・テキスタイルマテリアルセンター(動画紹介) ・長谷虎紡績株式会社 	【テーマ】 繊維産業の魅力発信 【主旨】 繊維業は羽島の伝統産業ながら、最先端の科学を生かした開発も進められ、製糸から最終製品まで裾野の広い産業です。意外と身近な製品を支えている地元企業・繊維産業の魅力や特色を PR したい。 【課題】 世界で勝負している優良企業もある業界ながら知名度が低く、若手の獲得にも苦労している。 【目標】 地場産業の理解促進と知名度向上のための PR コンテンツ提案
B.まちづくりコース <ul style="list-style-type: none"> ・佐吉大仏・山車会館 ・町屋ギャラリー ・山田一畳店 ・歴史民俗資料館 	【テーマ】 羽島の楽しみ方発信 【主旨】 コロナ禍で遠くに少し行きづらい。近場・地元で遊ぶには？羽島の満喫方法を伝えてください。 【課題】 観光客に PR する「ここぞ」という大きなスポットがない。 【目標】 今ある小さなスポットを活用した PR コンテンツ提案

3. スケジュール概要

A. 繊維産業コース			
11/14	(直接参加 14 名、オンライン参加 3 名)		
9:00	開会式		
9:20	アイスブレイク		
10:10	コース別プログラム		
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 【A. 繊維産業コース】 ・美濃縞体験コーナー ・テキスタイルマテリアルセンター (動画提供) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 【B. まちづくりコース】 ・佐吉大仏・山車会館 ・町屋ギャラリー </td> </tr> </table>	【A. 繊維産業コース】 ・美濃縞体験コーナー ・テキスタイルマテリアルセンター (動画提供)	【B. まちづくりコース】 ・佐吉大仏・山車会館 ・町屋ギャラリー
【A. 繊維産業コース】 ・美濃縞体験コーナー ・テキスタイルマテリアルセンター (動画提供)	【B. まちづくりコース】 ・佐吉大仏・山車会館 ・町屋ギャラリー		
12:00	昼食 (羽島グルメ解説)		
13:30	コース別プログラム		
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 【A. 繊維産業コース】 ・長谷虎紡績株式会社 本社 ・同上 平方カーペット工場 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 【B. まちづくりコース】 ・はしまイスター解説 ・山田一畳店 ・歴史民俗資料館 </td> </tr> </table>	【A. 繊維産業コース】 ・長谷虎紡績株式会社 本社 ・同上 平方カーペット工場	【B. まちづくりコース】 ・はしまイスター解説 ・山田一畳店 ・歴史民俗資料館
【A. 繊維産業コース】 ・長谷虎紡績株式会社 本社 ・同上 平方カーペット工場	【B. まちづくりコース】 ・はしまイスター解説 ・山田一畳店 ・歴史民俗資料館		
16:00	振り返り		
11/15	(全員オンライン参加)		
9:00	全体説明		
9:20	ブレイクアウトセッション①コンセプト作成		
10:45	ブレイクアウトセッション②質問会に向けた整理		
12:00	昼休み		
13:00	オンライン質問会		
14:10	ブレイクアウトセッション③スライド作成開始		
15:30	中間発表		
16:00	スライド修正		
	※11/20 までにスライド提出		
11/21	(全員オンライン参加)		
10:00	全体説明		
10:05	ブレイクアウトセッション①スライド確認と教員コメント →適宜スライド修正		
13:00	発表会		
14:30	閉会式		

4. 学生最終参加者数

	A.繊維産業	B.まちづくり	合計
岐阜大学	4人	2人	6人
中部学院大学	2人	1人	3人
中部大学	1人	2人	3人
日本福祉大学	1人	1人	2人
名古屋学院大学	0人	1人	1人
合計	8人	7人	15人

5. アンケート結果

(1) 回収率…11枚 (73%) (Aコース5、Bコース6)

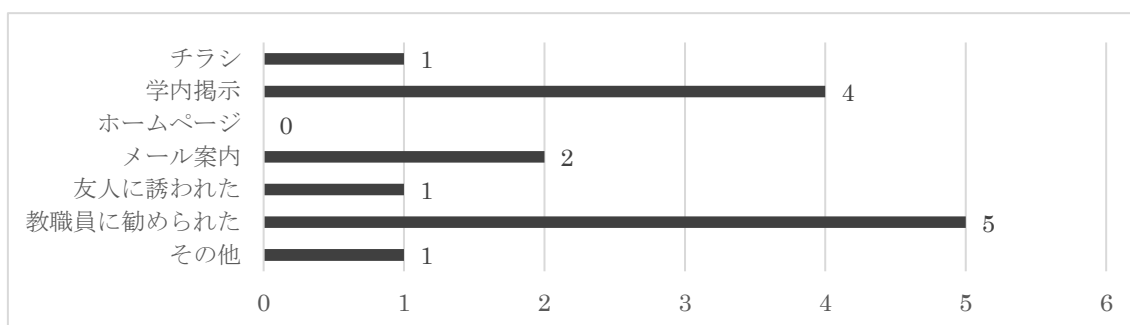
【回答者属性】

所属：岐阜大学4、中部学院大学2、中部大学3、日本福祉大学1、名古屋学院大学1

学年：1年4、2年2、3年5、4年0

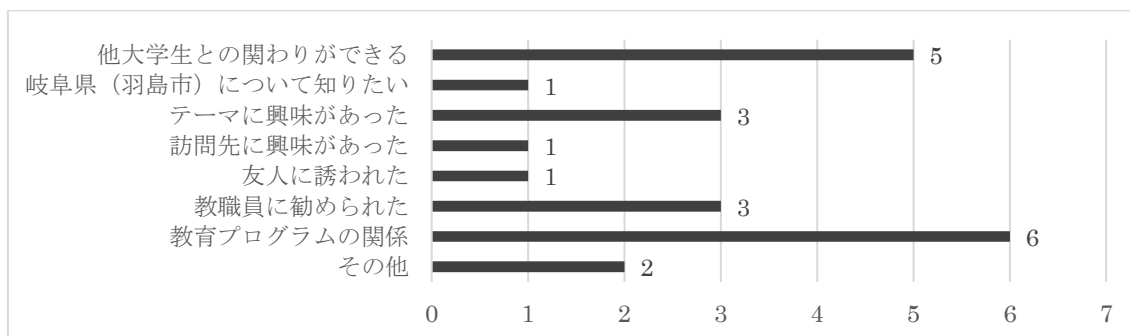
参加コース：A5、B6

(2) どのようにしてサマースクールを知りましたか (複数回答可)



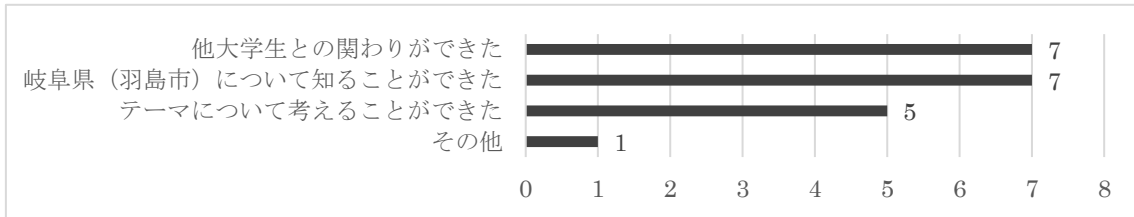
「その他」の記述内容：授業時、教職員にチラシとともに宣伝された

(3) 参加しようと思った理由は何ですか (複数回答可)



「その他」の記述内容 (2件)：「いろいろなことに挑戦してみたいと思った」「大学でとれる地域創造メディエーターの資格取得のため」

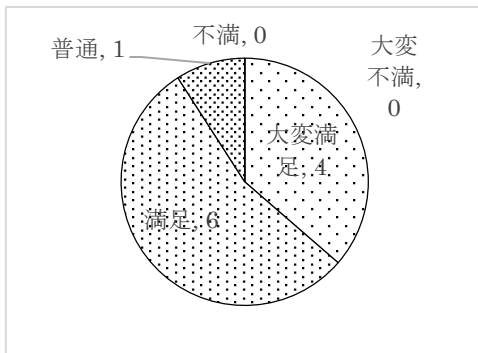
(4) 参加して良かったことは何ですか



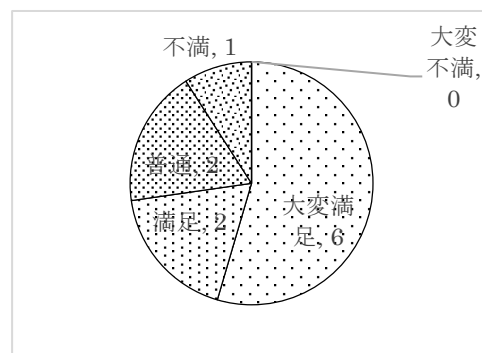
その他（1件）「普通の授業ではできない貴重な体験ができた。」

(5) 満足度を教えてください。

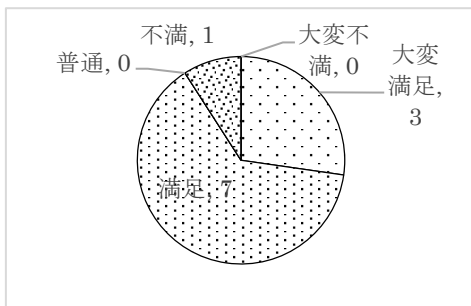
①プログラム全体



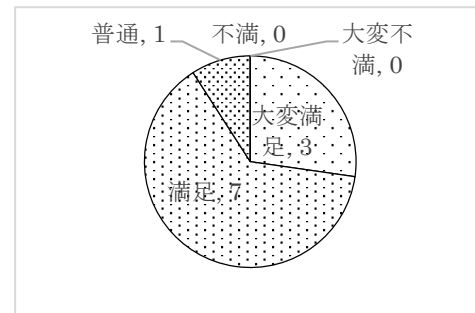
②現地見学（オンライン中継）



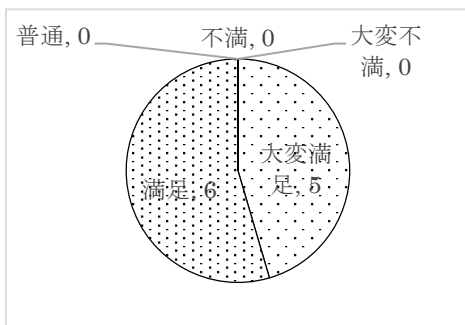
③オンライン質問会



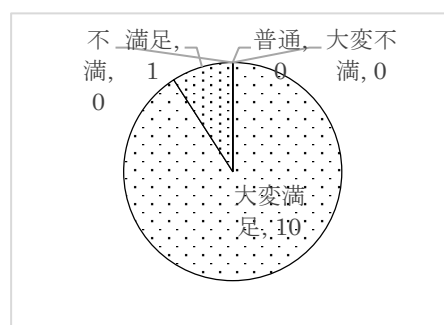
④グループワーク



⑤発表会



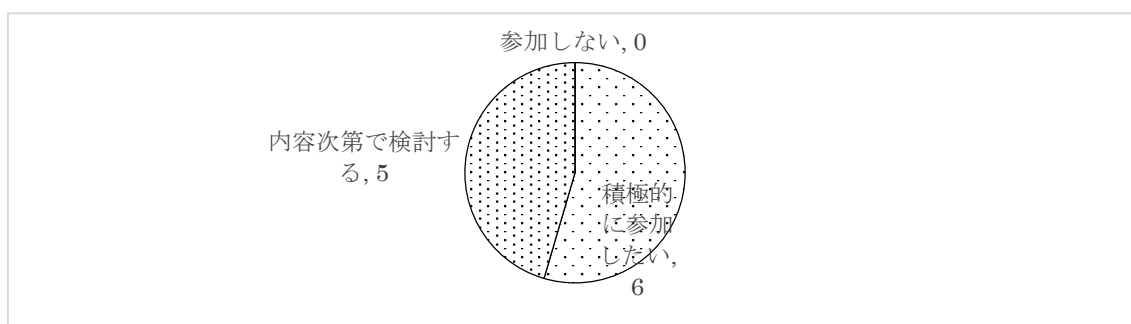
⑥教職員の対応



(6) オンラインを活用したプログラムについて、気付いた事（良かった点・改善点等）を教えてください

回線状況によりどうしても聞き取れないこと、現場にいけなくご飯の説明をなされても聞き取りにくい、食べれないであまり理解が深まらなかったこと。
時間が足りなかった。
遅延があり聞き取りづらい場面もあった。
このご時世でしょうがないのですがやはりオンラインだと声が聞きずらく少しストレスを感じました。
1 日目の見学や体験をするときにオンラインで参加している子にもう少し気配りができたらよかったと思った。
家から参加できるので、あまり早起しなくてよい。宿泊でないので気軽に参加できる。
ルームを自分たちで分けれる点
グループごとのチャットと全体のチャットで簡単には移動できたことが、グループでの話し合いもしやすくよかった。リーダーしか発言できない機会などがあったので、発言するのがリーダーに限られていなくてもいいのではないかと思った。
中継を行う際のタイムラグ・画像の粗さがあり、改善が必要と感じた。一方、オンライン中継という新たな形で行うことは非常に意義がある事だと感じ、先進的なプログラムだと感じた。
オンラインは回線が乱れることや挙手がしづらい点があると感じた。
一日目のオンライン参加の時、こちらから状況がわかりづらかったりき蟻田所を見ることができなかつたりした。カメラ担当とリポーターの二人がいればもっとわかりやすかったと思う。
二日目三日目のオンライン会議では zoom の機能を活用してスムーズに会議ができたと思う。ルームでチームごとに分かれて話し合いができたし、メモや画面共有を使って意見をまとめることもできた。

(7) 今後も同様の企画があれば参加したいですか



(8) その他、ご意見やご感想をお知らせください。

オンラインで今後行われるのであれば、もう少し疎外感、置いてきぼりが少なくなればなと思いました。
この経験を今後の校内の演習授業で生かしたい。良い経験ができた。
質問時間が短い・もっと現地取材の時間が欲しかった
特にありません。ありがとうございました。
現地見学が楽しかったです。町の雰囲気を感じたり、羽島グルメを楽しんだりすることは現地でしかできないので、1日目は現地見学を設けてよかったですと思います。3日目について、フィードバックをもらってからの修正に使える時間が少なかったです。プレゼンの練習もしなければならぬので、修正に使える時間が欲しかったです。もしくは、事前にスライドを提出した際に、フィードバックをもらえれば、3日目の前に修正することもできました。
これまで知らなかった羽島市の魅力についてしることができ、またコロナの時代だからこその配信方法について考えることができ、とても興味深かった。

6. 事後学習シート（11名回答）

(1) 1日目で特に印象に残ったことを教えてください

私はオンラインでの参加でしたので疎外感があったのですが、楽しめました。
羽島市在住でしたが、最近できた山車会館や町屋ギャラリーに初めて訪問し、充実した現地ワークだった。
羽島市で世界のトップブランドの服に使われている布が作られていることに驚いた。
自分もあまり羽島市に関して知らなかったけど、羽島市を散策して見て、すごい充実できるスポットがあって驚きました。特に印象に残ったのは映画資料館です。私はカメラが好きでその資料館の中には昔のカメラがありとても興奮しました。
オータムスクールに参加する前は、羽島市が繊維産業で有名であることは知らなかった。天然繊維を使用しているなど、環境に配慮していることが分かった。
羽島に、見どころとなるものがたくさんあることが印象に残りました。竹鼻祭りや藤祭りなどの祭りや、畳店、鍛冶屋、繊維産業など、伝統産業、羽島グルメなど、自分が知らなかっただけで実際は他地域に誇れるものがたくさんあることに気づきました。また、美濃のうだつの上がる街並みや、高山の古い町並みのように、街をあげて保存しているわけではないですが、古い木造の家屋が随所に見られて、昔ながらの日本の香りが残っていると感じました。また、昼食と補食として頂いた羽島グルメは創意工夫が凝らされていてとてもおいしかったです。また、羽島とは関係なしに印象に残っていることがあります。それは、はしまイスターの説明をしていただいた方に教えてもらった地域づくりのポイントです。3日間を通して重要になることを教えていただきました。
印象に残ったのは佐吉大仏です。大仏の中を見る体験を今までしたことなかったのと

<p>でも面白かったです。あと、お経も読めるように置いてあったり、とても親しみやすかったです。</p>
<p>羽島市には蓮根の料理やなまずバーガー、みそぎ団子など、今まで知らなかった美味しい羽島グルメがたくさんあることを初めて知った。またはシマイスターといった優れた技術を持った人を認定していて、観光に対するさまざまな工夫をしていることが分かり印象に残った。</p>
<p>長谷虎見学で社長のビジョンを聞いたこと</p>
<p>長谷虎紡績株式会社の訪問において、勝手に自身の潜在意識として繊維産業は今後衰退していく一方であると考えていたが、今後も発展の余地があることをお話しただいて印象に残った。</p>
<p>一日目はリモートでの参加で施設見学や動画を見た。実際に現地に行ってみると見学したり聞いたりするのは違い、見たいところを見れなかったり、気になったことを質問しにくかったりと難しかった。やはり現地に行き自分で体験したり見学したほうが学びや考えが深まると思った。</p> <p>このオータムスクールに参加するまで羽島市が繊維産業が盛んなことを知らなかった。マテリアルセンターや長谷虎の話聞いて繊維産業の魅力やすごさが少しわかった。</p>

(2) 2日目で特に印象に残ったことを教えてください

<p>私たちがいいと思っても、先生方の的確な指示によってより勉強になりました。</p>
<p>他大学の方とのワークショップは不安だったが、ほかの方が良い意見を出していただき、ありがたかったです。</p>
<p>質問をする中で様々な課題が見つかり中には僕たち学生には解決の難しいような課題もあることに驚いた。</p>
<p>グループワークでみんなで頑張ってプレゼンを作ったことが印象に残っています。</p>
<p>尾州マークはこれまでで 100 万枚使われているが少ないと思った。今治のタオルや倉敷のデニムのように生産者と消費者との距離が遠いため、なかなか認知されにくいという現状があることが分かった。</p>
<p>行政が何かを行う際には、公平性を保つようにしなければならず、保守的な姿勢にならざるを得ないという考え方が印象に残りました。また、自分たちの考えていることについてのフィードバックで言われたことも印象に残りました。引きつけ方を示す、目的を達成できる方法を考える、自分自身が羽島の魅力を言えるようにする、実際に羽島を訪れて得られたものを入れる、発信者を明確にする、情報を取捨選択し、必要なことだけプレゼンに盛り込むなど、今回のオータムスクールのみならず、これからの生かせそうなことをたくさん教えていただきました。また、オンライン発信というときに、SNS を使うということは思いつきましたが、TikTok は自分の頭の中になかったので、同じグループの人が TikTok という選択肢をあげたことはとても印象的でした。</p>

二日目は zoom でグループと話す機会が多かったのですが、短時間でどうやってオンライン発信をするか決めるのが難しかったです。あと意見をまとめるのも大変でした。
観光地としての魅力を発信するにあたり、何を最終目的とするかによって、どんな人をターゲットにするか、どのように発信すれば興味を持ってもらえるかなどが違うということがよく理解できた。そのようなことを踏まえてどう発信していくのがよいか考えるのが難しく、印象に残った。
山田さん・岩田さんに現状について質問したこと。
同じグループの人たちと議論を進めていき、また羽島の繊維産業に携わる方の話を伺い、想像以上に後継者不足が深刻であることを知り、それが印象深かった。
ほかのメンバーと違い一日目はリモートの参加で話し合いに参加できるか不安だったがリーダーやほかのメンバーが話を振ってくれたりわからないところは説明してくれたりして自分の意見を伝えることができた。 オンラインの会議は質問や意見が気軽にしにくいと思った。司会者やリーダーの意見をまとめる力や意見を引き出す力が必要だと思った。

(3) 3日目で特に印象に残ったことを教えてください

他のグループのプレゼンテーションを見ることによって今後学業や就職活動に生かせそうだと感じる事が出来ました。
繊維産業コースに関してはあまり触れていなかったもので、意見を聞いて素晴らしいと思った。
発表を聞いて山田さんや岩田さんから参考になったとのお言葉をいただき、良かったと思った。
みんな、羽島市の盛り上げていこうと一生懸命説明していたので良いと思いました。
ほとんどのグループで SNS を使って発信するという提案をしていて、今、直接現地へ行くことができない分、SNS やホームページを活用した PR をしていく必要があると思った。
ポイントを絞るという考え方が印象に残りました。自分たちも他のグループもそうですが、色々なことに裾野を広げすぎて、特に重要なことが、プレゼンで一番伝えたいことが、何なのかが決まっていない、もしくは伝わっていないということを指摘されて気づきました。また、自分たちのプレゼンでは相手に伝わっていないということに気づいたことも印象に残りました。自分たちが言いたいことを強調し、趣旨を明確にすることの重要性を学びました。また、質疑応答の際に自分の中ではとっさに回答が思いつかなかったもので、考え方が足りなかったということも印象に残りました。
三日目は発表がメインで、繊維のグループの人たちの発表を聞いて色んなアイデアだったりだとかなるほどなと納得できるようなものばかりでとても新鮮でした。
優れた地域づくりのポイントとして、どれだけ効率よく、手間がかからずできるかとい

うことを考えると、例えばインスタで事業者の方が羽島市観光の共通アカウントにログインして自信で投稿できれば解決できるのではと考えたが、そうなるセキュリティの面での心配があり、バランスを考える必要もあるということが印象に残った。
発表会における岩田さん・山田さんの講評
観光コースのプレゼンの中で、羽島の観光客を増やすための企画に TikTok を用いるのはどうかという意見を聞いて、自分の中になかった発想であったため印象に残っている。
どのグループの発表も課題点と解決策が良くまとめられていた。面白いアイデアや解決策もあり興味深かった。 午前中の最終打ち合わせではリハーサルで出た改善点をみんなで話し合い、よりよい発表ができるように協力できた。

(4) オータムスクールを通してわかった羽島のよさ

下町感があり、祖父母の家に帰ってきた感じがありました。
他の観光地と異なり、落ち着いた雰囲気のある街を見ることができる。 (このような感覚を味わえるのは、羽島の中でも、竹鼻だけです)
羽島には世界に誇れる産業や施設がある。
下町感があってファミリーとかで治安が良くすごい行きやすい場所だと思います。
繊維産業なれんこん、ナマズバーガーなどの名産があること。
祭り、伝統産業、グルメ、山車や映画関連の展示場など、良いものがたくさんあることです。竹鼻についていえば、見どころとなる施設が徒歩で行ける距離にあることも良さだと感じました。また、静かで人通りや車通りが少なく、落ち着いた雰囲気であることや、木造家屋が多く残っていることも良さだと感じました。
羽島に行くのは初めてだったのですが、私の住む名古屋とは違い地域が一体して街を盛り上げようとしてるチームワークやまた街の親しみ深さなど、下町のような雰囲気でも新鮮で面白かったし、そこが羽島のいい所の一つでもあるのではないかなと思いました。佐吉大仏のところでも結構そういった事を感じ、なかなか大仏を誰でも見られるように入口をオープンにしていたり、身近に体験できるようにお経や木馬？を置いてあるところはないと思いました。そういうのが出来るのは町の治安の良さだったりだとかも関係しているのかなと感じました。
なまズバーガーやみそぎ団子など、羽島ならではの美味しくて珍しい羽島グルメがたくさんある。また、優れた技術を持つはしまイスターという人がいたり、きれいな花が見られる場所があったりする。このように、神社など魅力的な観光地も多くあるが、それだけでなく魅力がたくさんある。
決して煌びやかではないが強かに生き残る産業があり、生き残りにむけて模索する人々が居るといふ人材の豊富さ。
下町感、日本をけん引する繊維産業、新幹線の駅があること

羽島を含む尾州地域では世界トップレベルの記事を作っており、有名ブランドやデザイナーからその品質を認められている。新たな繊維を作り環境に配慮したモノづくりをしている。また、ナマズバーガーやレンコンなどの特産品もあり、新幹線の駅や高速道路のインターもあり交通の便も良い。

(5) オータムスクールを通してわかった羽島の弱み、課題

羽島といえばこれというのが少ないということなのではないかということです。
市民であっても知らないことが多くあった。情報発信が弱い感じがした。
将来性が薄く、特に後継者問題に関しては直近の課題である。
せっかくおいしいグルメやスポットがあるのに大勢の人に知れ渡ってないのが弱みだと思います。
特産品があってもそれがあまり多くの人に認知されていないこと。
町として外に売り出す中核になる存在がないことです。一つ一つは良いものでも、インパクトに欠け、羽島を訪れる目的となるには不十分なものが多いように思います。新幹線の駅や高速道路のインターチェンジがあっても、それを利用してもらえるだけの売りになるものがなく、観光客に来てもらうのが難しいと感じました。
羽島のグルメや竹鼻まつりなど、オータムスクールが終わったあと親に知ってるか聞いたところ、親も特産品などなにも知りませんでした。色々スポットやグルメも考えていても知らないともったいないと感じました。やはり認知されるというのがとても課題になってくるのではないかなと感じました。あと、ギャラリーなどに見学して思ったのも、バリアフリーがしっかりしていてよかったのに活用されていないのがとてももったいないと思いました。でも現実的に考えて移住してくる人による景観などの変化だったり予算の事を考えると難しい部分もあるのかなと思いました。
魅力ある小さなスポットが探してみればたくさんあるものの、観光客に認知されておらず観光客が少ないこと。観光地としての魅力が知られていないと、観光客が羽島について知る機会がなくなってしまっている。
繊維産業という主な産業が衰退しつつあり、新幹線が通っているという強みも今一つ活かしていない点。
羽島の産業の中心を担う繊維産業に後継者が少ない、あまり羽島の繊維産業が知られていない、有名な観光スポットがない
特に繊維産業では、認知度が低く一般の人には知られていないこと。高齢化が進み後継者がいないこと。インターネットを使った事業をあまり行えていないこと。

(6) テーマに取り組む中でわかったこと、感じたこと

皆で意見を出すことによって自分自身または同じ大学ではない人たちとの意見が聞けてより視野が広がったように感じました。

羽島市の認知不足
オンラインでの解決がメインであったが、実際に生のものを見ることを現地の方は強調されていたのでオンラインと対面の両立が大切だと思った。
羽島市のように良い場所なのに伝えきれてない場所は日本の中にもっとあるんじゃないかと思いました。
コロナ禍で対面で行うことができない分、画面越しの人に分かりやすく伝えるために、声や話すスピードだけでなく、見やすいスライドを作ることや誰に伝えたいのか、何を伝えたいのか、より明確にする必要があると思った。
求められているものに答える提案をすることの難しさを感じました。最初は移住者を増やすような提案をしようと思っていましたが、今回求められているものからは外れていることに気づき、提案を一から考え直しました。また、勉強と同じで、話し合っていることについて自分の中で十分に消化することも難しいことに気づきました。また、チーム内で認識がずれていることがあり、チーム全員で認識を同じにすることが難しいことに気づきました。その他気づいたことは1~3の回答にも示しているので、ここで二重に書くことは避けます。
町の活性化を目指すうえで色々な人の努力の下で成り立っているのだなととても感じました。ナマズにしてもレンコンにしても、ギャラリーにしても色々な人がたくさんの時間をかけて沢山考えてやっているという事を今回のオータムスクールで知りました。予算内でどうやって取り組むかだったり、立場を考えて取り組むかだったり、簡単そうにみえてとても複雑なんだと思いました。
今まで羽島市は観光地となりうるようなものが何もないと思っていたが、実際に羽島を巡って、羽島グルメを食べることで、そうではないということが分かった。観光地として知られていくとも魅力がたくさんあるところもあるということを知り、またそのような魅力を見つけて発信方法を考えていきたいと感じた。
繊維産業には構造的な厳しさがあり、これを立て直すには抜本的な改革が必要であるということ。
それぞれがそれぞれの意見を持っているため、すべてをくみ取り、皆が納得する方向に議論を進めるのは難しいこと
繊維産業にかかわっている人たちの繊維産業にかける情熱がすごいと思った。自分たちの仕事に誇りを持っており、その誇りや技術を次の担い手たちに託して繊維産業を残していこうとしていた。今まで知らない分野であったが少し興味が出てきた。

(7) オータムスクールに参加したことで、自分自身に対する変化がありましたか

上記にも記したように、視野を広げることが出来たため今後このような活動があった際にまたやりたいと思いました。

他大学の学生とかかわったことで、自分に足りないものを確認できた。コロナの影響でフィールドや人間関係が狭くなっていたので良い機会だった。
課題をどうすれば解決できるのかを今まで以上に親身になって取り組めた。
羽島市をよくするというので、今自分が住んでいる地域もこのような交流会を開いて活性化したいと感じました。
他のチームの意見や発表を参考にして自分達のグループに取り入れることや、修正点や改善策を考えることができた。
人数が少なかったこともあり、今までのグループワークよりはたくさん話せた気がします。実行委員長の方が言われたほどの変化は感じません。
私は旅行が好きなどで今は東海三県の中で色々行ったりするのですが、その町のバックグラウンドはどんなだったのかだったり、この町はどういった工夫をしているのかだったり色んな町の取り組みに興味を持ちました。また、グループワークも相手の意見を聞きながらまとめるのが大変でしたが、いい経験になったなど感じました。
観光地として有名になっている場所はどのような人をターゲットとしてどのように魅力を発信しているかなど気にするようになった。また、それが他の知られていない魅力的な場所に应用できないか考えるようになった。
今までより地域に目を向け、企業に目を向けるようになった。
自分の意見を発言することに対して抵抗感が少なくなった (Zoom でおこなったというのもその意味ではよかった)
自分の意見を思い切って伝えるようになった。あっている間違っているに限らず、思ったことをグループで共有し、そこから新たな考えが出てきた。リーダーとしてメンバーとその意見の両方をまとめる力が必要と感じた。

(8) 目標について (達成できたか、反省点、今後の課題)

反省点としては、まだうまくしゃべりなれていないということが挙げられます。
今回のプログラムで遠隔によるワークショップの課題が出てきた。校内の演習などで生かしたい。
自分の能力を全力でつかって課題解決に取り組んだ。しかし、内容の面ではまだまだ考慮すべき点が多く、完璧なものとは言えなかった。今後はさらに深堀をした解決策を導けるように、自分の能力を磨いていきたい。
しっかりと羽島市を活性化するためにみんなに羽島市の魅力を伝えれたと思うので良かったです。
自分から率先して意見を言えていなかったことと、留学生の子に対してもう少しフォローができたらよかったと思った。
目標は、達成できたことにしたいと思います。ただ、反省点はいくつかあります。話し合いの時に他の人が投げかけた問いについてただ答えるという場面が多かったこと、自分

が問いを投げかけているときに話し合いがあまりうまく進んでいなかったこと、修正しきれないまま発表の時間になってしまったこと、話し合いに気を取られて集合時間に間に合わなかったことなどがあります。また、他の人と比べて、自分で調べて情報を得ようとする姿勢が弱かったです。話し合いのスキルは簡単に身につくものではありませんが、集合や情報を得ようとする姿勢は意識だけで変えられます。自分で気づいた自分に足りない部分は今後の課題となりそうです。

発表までに時間が少なくて自信のある発表ができなかったかなと反省もありました。あと発表内容でどうしてこうなのかわたたりどうしてこれにしたのか理由ももっと資料を集めて詰めれたらよかったかなと思いました。

羽島市の魅力について知り、その発信方法について学ぶという目標を設定し、達成することができた。予算、手間、セキュリティや差別化などの面で実現可能に至るまで考えていなかったため、今後の課題にしたい。

産業の課題に向き合うことはできたが、この経験を自身の就活にどう結びつけるかは今後の課題

今回、オータムスクールで自分の進路の幅を広げられたらいいなと思っていたが、新たな産業を知ることができたことと、みなで課題解決に取り組んだ経験から目標が達成できたと考えている。繊維産業に少し興味を持ったため、今後、選択肢の一つとして考えていきたい。

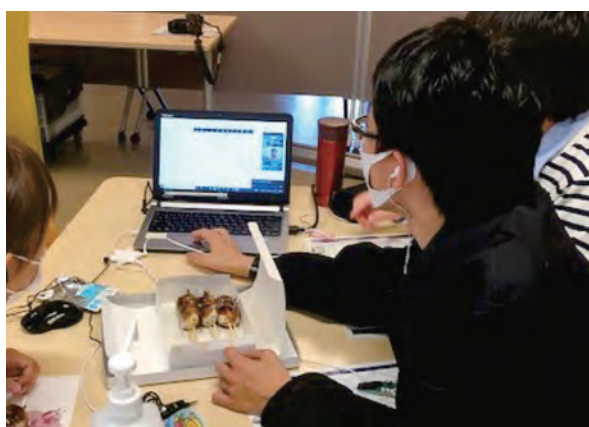
今回のオータムスクールの目標は羽島の繊維産業の実態のついて学ぶことと、一つの課題に対しグループで解決していくために必要な力を学ぶことの二つがあった。羽島の繊維産業については、イワゼンの岩田さんやマテリアルセンターの山田さん、長谷虎紡績さんたちの話から繊維産業の魅力や強み、今後の課題など多くのことが学べた。もう一つの目標は、みんなの意見をまとめ、より質の高い発表にするために話し合う大切さがわかった。課題として、自分にはまだ意見をまとめたり会議を進行する能力が低いので、授業の中のグループワークや話し合いなどで積極的に司会をしていきたい。

7. プログラムに関する意見交換

- ・中継時、移動時間や昼食時でも中継を切るのではなく、見る見ないは任せるとしても少しでもつないで情報提供してあげると疎外感はいさいではないか。(スタッフ)
- ・オンライン参加だと直接参加よりもキャンセルへの抵抗が小さそう。(スタッフ)
- ・オンラインでは積極的な発言がしにくい。リーダーやメンバー間での積極的な呼びかけがあると良い(アンケート)
- ・意見の発信に抵抗が少なくなった。Zoom だったのはその意味でも良かった(アンケート)
- ・3日目、最初にあれだけ意見をもらうのならもっと時間が欲しかった。(参加学生)

『オータムスクール 2020 in 羽島』の様子

<グループワーク>



<見学>



<昼食>



<集合写真>



3. 新聞記事



新入生を代表して宣誓を読み上げる安藤さん＝春日井市松本町の中部大で

学び直しへ4人志新たに

中部大 シニア大学入学式

春日井市松本町の中部大で十六日、五十代以上の学び直しを支援するシニア大学「アクティブアゲインカレッジ」の入学式があり、書類審査と面接試験を通過

した六十一〜七十七歳の男女四人が出席した。カレッジはシニア世代に再学習の機会を提供し、セカンドライフづくりを応援しようと二〇一四年に開設

され、今回の新入生が七期生となる。「健康・福祉」「国際・地域・文化」の二つのコースがあり、二年をかけて学ぶ。

入学式ではカレッジ長の辻本雅史・中部大副学長が「人は死ぬまで学び、成長し続けることができる。若い学生と机を並べ、学びた

いように学んでください」と激励した。

新入生を代表して宣誓を読み上げた岐阜県各務原市の安藤か代さん(モ)は「カリキュラムは多岐にわたるので、学生、社会人時代に学べなかったことに挑戦したい」と意気込んでいた。

(小林大晃)

2020年9月17日(木) 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(平成25年度～平成29年度)
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)
『岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成』

2020(令和2)年度
「地(知)の拠点継続事業」成果報告書

発行日 2021(令和3)年3月

編集発行 中部大学 国際・地域推進部
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
電話：0568-51-1763 FAX：0568-51-1172
<https://www3.chubu.ac.jp/coc/>

印刷 木野瀬印刷株式会社
〒486-0958 愛知県春日井市西本町三丁目235番地

